

令和元年度
大田区高齢者等実態調査
報告書
— 概要版 —

令和2年3月
大田区

[目 次]

第 1 章 調査の概要	1
1. 調査の目的.....	1
2. 調査の構成.....	1
3. 回収状況.....	2
4. 概要版の見方.....	2
5. 居住地域の分類について.....	3
6. ウェイトバック集計について.....	5
第 2 章 高齢者一般調査結果	6
1. 充実した生活を送るために、取り組んだほうがよいこと.....	6
2. 充実した生活を送るために、実践していること.....	8
3. 地域のつながりの必要性.....	10
4. 地域のつながりの実感.....	11
5. 認知症の人との共生に必要な取組みや支援.....	12
6. 認知症予防に向けた取組み.....	12
7. 介護が必要になった場合に希望する暮らし方.....	13
8. 介護が必要になっても安心して暮らすための条件やサービス.....	15
9. 区が取り組むべきこと.....	16
10. 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の分析.....	17
(1) 分析の目的.....	17
(2) 分析の構成.....	17
11. 評価項目別の結果.....	18
(1) 運動器機能.....	18
(2) 転倒.....	19
(3) 閉じこもり.....	20
(4) 低栄養.....	21
(5) 口腔機能（咀嚼機能）.....	22
(6) 義歯の有無と歯数.....	23
(7) 孤食.....	24
(8) 認知機能.....	25
(9) 手段的日常生活動作（IADL）.....	26
(10) うつ傾向.....	27
第 3 章 要介護認定者調査結果	28
1. 要介護状態の維持・改善に向けて取り組んだほうがよいこと.....	28
2. 要介護状態の維持・改善に向けて実践していること.....	30
3. 地域のつながりの必要性.....	32
4. 地域のつながりの実感.....	33

5. 認知症の人との共生に必要な取組みや支援	34
6. 認知症予防に向けた取組み	34
7. 今後希望する暮らし方	35
8. 在宅で安心して暮らすための条件	37
9. 在宅介護実態調査の分析	38
(1) 分析の目的	38
(2) 主な介護者との続柄	38
(3) 主な介護者の年齢	38
(4) 主な介護者が不安に感じている介護	39
第4章 第2号被保険者調査結果	40
1. 充実した高齢期の生活を送るために、取り組んだ方がよいこと	40
2. 充実した高齢期の生活を送るために、実践していること	41
3. 地域のつながりの必要性	42
4. 地域のつながりの実感	42
5. 認知症の人との共生に必要な取組みや支援	43
6. 認知症予防に向けた取組み	43
7. 家族等の介護をした経験	44
8. 介護をしながら仕事を続けるうえでの不安	45
第5章 介護サービス事業者調査結果	46
1. PDCAサイクルの活用によるサービスの質の向上に向けた取組みの有無	46
2. サービスの質の向上に向けた取組み	46
3. 高齢者、障害者、外国人の活用の取組み状況	47
4. ケアマネジメントの質の向上に向けた取組み	48
5. 地域包括ケアシステムの構築に向けて優先すべき課題	49
第6章 未把握ひとり暮らし高齢者訪問調査結果	50
1. 1人での生活について	50
2. 普段の生活で楽しみにしていること	51

第1章 調査の概要

1. 調査の目的

令和2年度に、令和3年度から令和5年度を計画期間とする第8期「おおた高齢者施策推進プラン」(以下「8期プラン」という)を策定します。

この調査は、8期プランの基礎資料として、介護保険被保険者の区の高齢者福祉サービスや介護サービスに対する意見・意向等を把握するとともに、介護サービス事業者の事業の現状や今後の事業展開等を把握することを目的として実施しました。

2. 調査の構成

本調査は、大別すると、大田区の介護保険被保険者の方を対象とする調査と、区内の介護サービス事業者を対象とする調査から構成されています。調査基準日は令和元年10月1日です。

また、各調査の対象者、調査方法、実施期間は、以下の通りです。

調査の種類	調査対象者	調査方法	実施期間
①高齢者一般調査	在宅で生活する元気高齢者、総合事業対象者、要支援1、2の要支援認定者	・郵送配付 郵送回収 ・はがきによる督促1回 ・③④調査は、電子申請サービスによる回答も併用	令和元年11月14日 ～ 令和元年12月5日
②要介護認定者調査	在宅で生活する要介護1から要介護5の要介護認定者		
③第2号被保険者調査	要支援・要介護認定を受けていない55歳から64歳の第2号被保険者		
④介護サービス事業者調査	区内で介護サービス、居宅支援事業所を運営する法人		
⑤未把握ひとり暮らし高齢者訪問調査	75歳以上で、単身、かつひとり暮らし登録台帳の未登録者、かつ要支援・要介護認定を受けていない、かつ見守りキーホルダーの未登録者	・訪問面接調査	令和元年6月1日 ～ 令和元年10月31日

3. 回収状況

各調査の回収状況は、以下のとおりです。

調査の種類	調査対象者数 [A]	回収数	有効回収数 [B]	回収率 [B ÷ A × 100]
①高齢者一般調査	5,600 人	4,049 人	4,047 人	72.3%
②要介護認定者調査	3,200 人	2,105 人	1,645 人	51.4%
③第2号被保険者調査	1,000 人	601 人	599 人	59.9%
①～③計	9,800 人	6,755 人	6,291 人	64.2%
④介護サービス事業者調査	600 事業者	498 事業者	495 事業者	82.5%
⑤未把握ひとり暮らし高齢者 訪問調査	8,771 人	(訪問実施数) 1,637 人	404 人	4.6%

4. 概要版の見方

(1) 報告書を読むにあたっての注意

- ◆図表中の「n」(number of case の略) は、各設問に該当する回答者の総数であり、百分率 (%) の母数を表しています。
- ◆本報告書に掲載した図表の単位は、特に断りのない限り百分率 (%) で示しています。百分率 (%) は小数点第2位を四捨五入し、小数点第1位までを表記しているため、合計が必ずしも100%にならない場合があります。
- ◆回答者が2つ以上回答することのできる質問(複数回答)については、百分率 (%) の合計は100%を超えることがあります。
- ◆回答結果の全体の傾向を捉えるため、単純集計を行い、その特徴等を記述しています。単純集計のグラフにおいては、傾向をよりわかりやすくするために、選択肢を回答率 (%) の高いものから低いものへと並び換えて表示している場合があります。
- ◆クロス集計表の記載にあたっては、分析の柱となる項目(性別や年齢など)の「無回答」は掲載を省略しています。したがって、分析の柱となる項目の回答者数の合計は、全体とは一致しません。また、分析の柱となる項目の回答者数が30人未満であるものについては、原則として本文を省略しています。
- ◆本文や図表の記載にあたっては、調査票の選択肢等の文言を一部簡略化している場合があります。簡略化している選択肢については、「資料編 使用した調査票」をご参照ください。
- ◆図表において、選択肢が多いなどすべての数値を表記することが困難で、分析に支障がないと判断した場合は、数値を省略しています。
- ◆統計数値を記述するにあたり、割での表記を用いる場合、おおむね以下のとおりとしています。また、状況に応じて、○割台、○割以上、○割前後などとまとめている場合もあります。

(例)	数値	表現
	17.0～19.9%	約2割
	20.0～20.9%	2割
	21.0～22.9%	2割を超える、2割強
	23.0～26.9%	2割台半ば
	27.0～29.9%	約3割

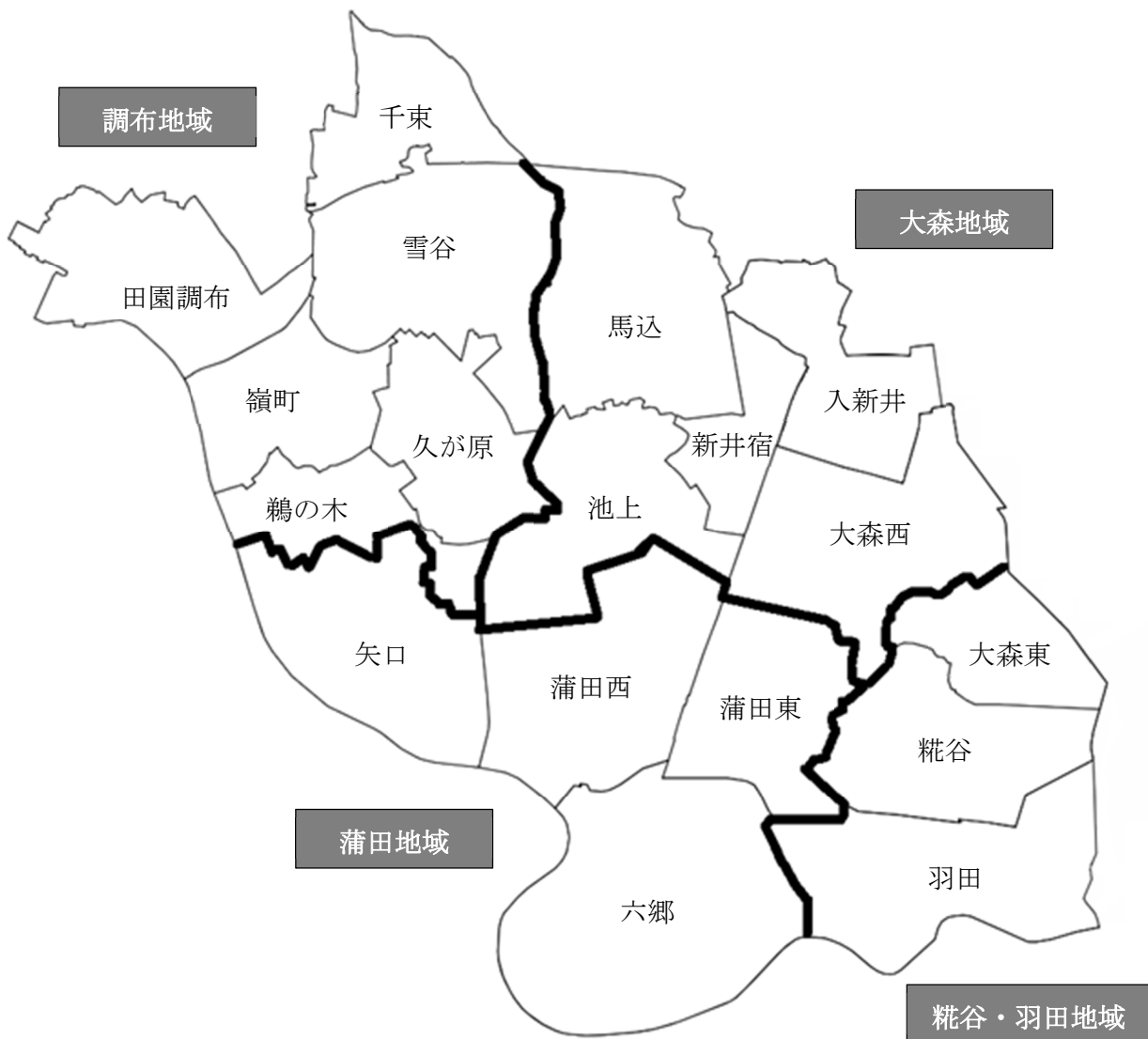
5. 居住地域の分類について

第2章「高齢者一般調査結果」及び第3章「要介護認定者調査結果」においては、以下の特別出張所が所管する18地域を日常生活圏域として、集計・分析を行っています。

日常生活圏域名	特別出張所所管区域
大森東	大森東4～5丁目、大森南1～5丁目（1・2丁目の一部を除く）、大森中1丁目の一部・2丁目の一部・3丁目の一部
大森西	大森東1～3丁目、大森西1～7丁目、大森中1～3丁目（1・2・3丁目の一部を除く）、大森本町1～2丁目（1丁目の一部を除く）、ふるさとの浜辺公園、平和の森公園
入新井	大森北1～6丁目、大森本町1丁目の一部、昭和島1～2丁目、平和島1～6丁目、京浜島1～3丁目、城南島1～7丁目、東海1～6丁目、山王1～2丁目
馬 込	東馬込1～2丁目、西馬込1～2丁目、南馬込1～6丁目（6丁目の一部を除く）、北馬込1～2丁目、中馬込1～3丁目
池 上	南馬込6丁目の一部、池上1～8丁目（3丁目の一部を除く）、中央5～8丁目
新井宿	山王3～4丁目、中央1～4丁目
嶺 町	南雪谷2丁目の一部・4丁目の一部、東嶺町、西嶺町、北嶺町（一部の番地を除く）、田園調布本町、田園調布南
田園調布	雪谷大塚町（1番地を除く）、田園調布1～5丁目
鶉の木	南久が原1～2丁目、鶉の木1～3丁目、千鳥1～3丁目（1・2・3丁目の一部を除く）
久が原	池上3丁目の一部、東雪谷5丁目の一部、南雪谷5丁目の一部、北嶺町の一部の番地、久が原1～6丁目、千鳥1丁目の一部、仲池上1丁目の一部・2丁目の一部
雪 谷	上池台1～5丁目（1丁目の一部を除く）、雪谷大塚町の1番地のみ、東雪谷1～5丁目（5丁目の一部を除く）、南雪谷1～5丁目（2・4・5丁目の一部を除く）、南千束1丁目の一部・2丁目の一部・3丁目の一部、北嶺町の一部の番地、石川町2丁目の一部、仲池上1～2丁目（1・2丁目の一部を除く）
千 束	上池台1丁目の一部、南千束1～3丁目（1・2・3丁目の一部を除く）、北千束1～3丁目、石川町1～2丁目（2丁目の一部を除く）
糺 谷	大森南1丁目の一部・2丁目の一部、東糺谷1～6丁目、西糺谷1～4丁目（1丁目の一部を除く）、北糺谷1～2丁目
羽 田	羽田1～6丁目、羽田旭町、羽田空港1～3丁目、本羽田1～3丁目、萩中1～3丁目
六 郷	南蒲田2丁目の一部、東六郷1～3丁目、西六郷1～4丁目、南六郷1～3丁目、仲六郷1～4丁目
矢 口	千鳥1丁目の一部・2丁目の一部・3丁目の一部、矢口1～3丁目、下丸子1～4丁目
蒲田西	西蒲田1～8丁目、新蒲田1～3丁目、東矢口1～3丁目、多摩川1～2丁目
蒲田東	蒲田1～5丁目、東蒲田1～2丁目、南蒲田1～3丁目（2丁目の一部を除く）、蒲田本町1～2丁目、西糺谷1丁目の一部

第4章「第2号被保険者調査結果」においては、18の日常生活圏域を以下の4つの基本圏域に分類し、集計・分析を行っています。

基本圏域名	日常生活圏域名
大森地域	大森西、入新井、馬込、池上、新井宿
調布地域	嶺町、田園調布、鶉の木、久が原、雪谷、千束
蒲田地域	六郷、矢口、蒲田西、蒲田東
糀谷・羽田地域	大森東、糀谷、羽田



6. ウェイトバック集計について

「高齢者一般調査」と「要介護認定者調査」では、日常生活圏域別の傾向を把握することを目的に、人口の少ない地域においても一定の有効回収数を確保するため、母集団に対する各圏域の人口の構成比とは異なるサンプル（標本）数を抽出しました。

よって、集計にあたっては、データにウェイトを乗じて算出するウェイトバック集計を活用しています。

ウェイトバック集計とは、回収されたサンプル（標本）を母集団（対象人口）の構成に合わせて集計する方法です。母集団と回収サンプルの構成比が異なる場合に、属性の抽出率や回収率の違いを補正し母集団構成比に復元する場合などに使用します。

今年度の調査における各日常生活圏域のウェイトは下記のとおりです。

● 高齢者一般調査

日常生活圏域		母集団 ^{*1}	割合(%)	回収数	ウェイト
		134,790	100.00	4045.00	33.32
1	大森東	4,046	3.00	231.00	17.52
2	大森西	11,951	8.87	231.00	51.74
3	入新井	6,557	4.86	221.00	29.67
4	馬込	9,870	7.32	233.00	42.36
5	池上	8,619	6.39	229.00	37.64
6	新井宿	4,266	3.16	208.00	20.51
7	嶺町	5,029	3.73	219.00	22.96
8	田園調布	4,553	3.38	210.00	21.68
9	鶉の木	4,807	3.57	219.00	21.95
10	久が原	5,288	3.92	238.00	22.22
11	雪谷	9,239	6.85	232.00	39.82
12	千束	4,865	3.61	211.00	23.06
13	糀谷	7,309	5.42	214.00	34.15
14	羽田	7,716	5.72	227.00	33.99
15	六郷	13,593	10.08	254.00	53.52
16	矢口	7,748	5.75	243.00	31.88
17	蒲田西	11,191	8.30	217.00	51.57
18	蒲田東	8,143	6.04	208.00	39.15

● 要介護認定者調査

母集団 ^{*2}	割合(%)	回収数	ウェイト
7,905	100.00	2093.00	3.78
251	3.18	116.00	2.16
771	9.75	116.00	6.65
321	4.06	109.00	2.94
473	5.98	111.00	4.26
545	6.89	126.00	4.33
240	3.04	112.00	2.14
288	3.64	110.00	2.62
242	3.06	109.00	2.22
312	3.95	119.00	2.62
328	4.15	116.00	2.83
548	6.93	111.00	4.94
307	3.88	105.00	2.92
497	6.29	117.00	4.25
469	5.93	124.00	3.78
782	9.89	121.00	6.46
464	5.87	119.00	3.90
643	8.13	128.00	5.02
424	5.36	124.00	3.42

※1 高齢者一般調査の母集団は調査基準日の高齢者人口（65～90歳）から要介護1～5認定者を除いた数です。

※2 要介護認定者調査の母集団は、調査基準日の要介護1～5認定者（65～90歳）から、特別養護老人ホーム、老人保健施設、特定施設、グループホーム等の施設に入所・入居している人及び介護保険サービスの利用実績のない新規の申請者を除いた数です。

第2章 高齢者一般調査結果

1. 充実した生活を送るために、取り組んだほうがよいこと

あなたは、いきいきと充実した高齢期の生活を送るために、これから、取り組んだほうがよいことは何だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

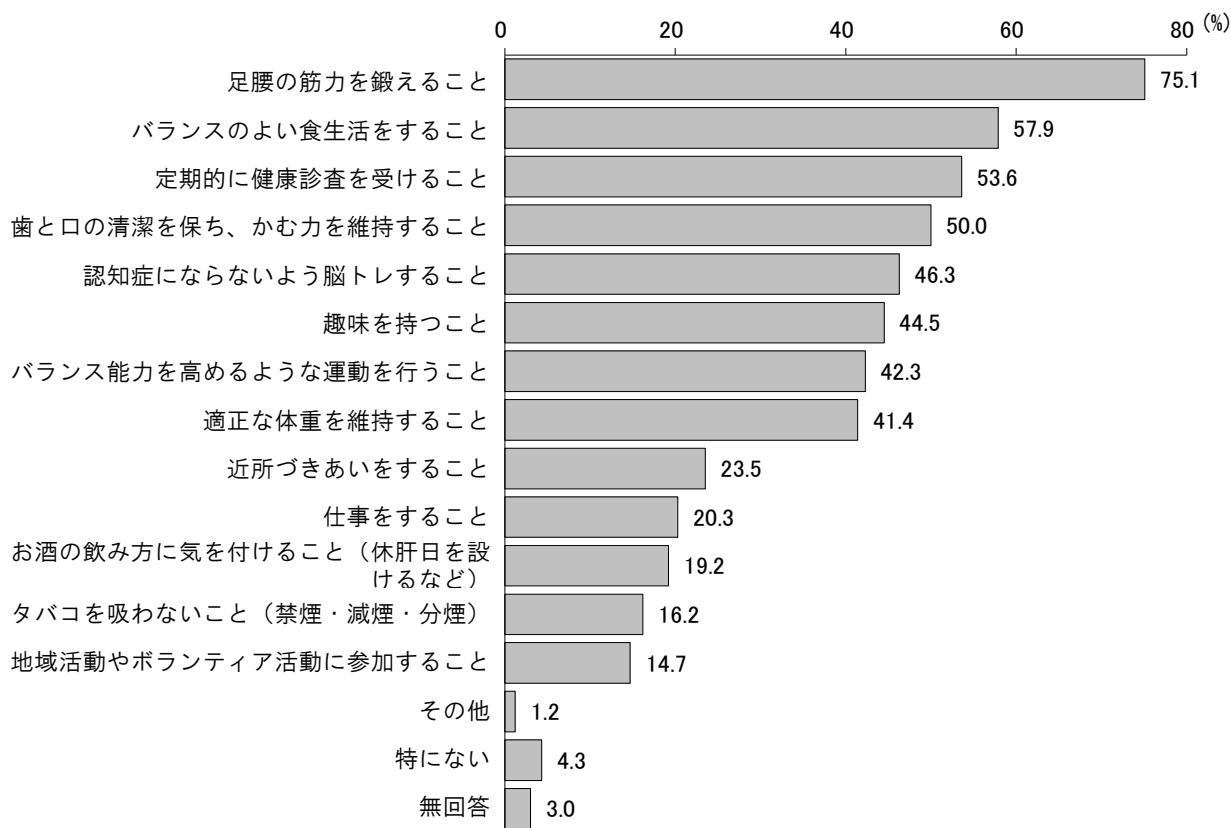
充実した生活を送るために取り組んだ方がよいことは、「足腰の筋力を鍛えること」が75.1%で最も高く、次いで「バランスのよい食生活をする事」(57.9%)、「定期的に健康診査を受けること」(53.6%)、「歯と口の清潔を保ち、かむ力を維持すること」(50.0%)となっています。

男女別にみると、上位の項目はすべて女性の方が男性より高く、特に「バランスのよい食生活をする事」(63.5%)と「歯と口の清潔を保ち、かむ力を維持すること」(55.6%)で10ポイント以上高くなっています。逆に「お酒の飲み方に気を付けること(休肝日を設けるなど)」(29.5%)では男性の方が18ポイント高くなっています。

年齢別にみると、年齢が上がるほど割合は低くなっていく項目もありますが、「認知症にならないよう脳トレすること」と「近所づきあいをする事」は年齢が上がるほど割合も高くなっています。

世帯類型別にみると、ほとんどの項目で、「夫婦ふたり暮らし」の方が「ひとり暮らし」より高い割合となっています。

日常生活圏域別にみると、雪谷と千束は区平均より5ポイント以上高い項目が多くなっています。



(%)

		足腰の筋力を鍛えること	バランスのよい食生活をするこ	定期的に健康診査を受けること	歯と口の清潔を保ち、かむ力を維持すること	認知症にならないよう脳トレすること	趣味を持つこと	バランス能力を高めるような運動を行うこと	適正な体重を維持すること	近所づきあいをすること	仕事をする事	お酒の飲み方に気を付けること（休肝日を設けるなど）	タバコを吸わないこと（禁煙・減煙・分煙）	地域活動やボランティア活動に参加すること	その他	特にな	無回答
全体		75.1	57.9	53.6	50.0	46.3	44.5	42.3	41.4	23.5	20.3	19.2	16.2	14.7	1.2	4.3	3.0
性別	男性	72.1	50.6	52.5	42.8	40.5	40.6	41.7	39.9	18.5	24.9	29.5	20.7	13.4	1.0	5.1	2.9
	女性	77.5	63.5	54.5	55.6	50.7	47.5	42.8	42.6	27.3	16.8	11.4	12.7	15.6	1.4	3.7	3.1
年齢別	65～74歳	76.2	58.1	54.5	49.4	42.7	46.4	43.0	44.0	21.4	27.2	21.5	16.3	17.1	1.0	3.9	2.8
	75～84歳	74.6	57.0	52.6	50.0	50.4	44.3	42.6	39.0	25.6	13.5	17.1	16.3	13.3	1.6	4.2	3.2
	85歳以上	70.9	60.4	53.0	54.2	49.8	33.3	36.4	36.6	26.8	7.7	14.7	14.8	5.6	0.6	7.0	3.9
世帯類型別	ひとり暮らし	72.9	56.7	48.4	46.9	44.6	43.6	40.1	39.0	24.1	19.9	18.4	16.9	13.1	1.6	5.3	2.7
	夫婦ふたり暮らし	75.6	57.5	57.2	51.6	46.5	47.5	44.7	42.9	23.9	21.0	22.1	18.0	16.5	1.4	3.8	3.4
	その他	76.5	59.2	52.8	50.5	47.1	42.5	41.5	41.4	22.6	19.8	16.9	13.9	13.5	0.8	4.2	2.8
日常生活圏域別	大森東	74.9	55.4	52.4	51.1	46.8	47.2	44.2	40.7	20.8	22.5	21.6	16.5	13.9	0.9	4.8	2.2
	大森西	74.5	58.0	55.8	50.2	48.9	42.9	40.7	43.3	25.5	22.5	22.1	17.7	16.0	-	2.2	3.0
	入新井	71.0	53.4	49.3	51.1	40.3	43.4	44.3	43.0	22.2	20.4	17.6	19.0	13.6	1.4	6.3	5.0
	馬込	75.1	57.9	53.2	54.1	43.3	45.1	45.5	44.6	26.2	25.8	18.9	16.7	10.7	1.3	3.4	3.4
	池上	73.4	57.6	52.4	51.5	45.0	45.9	42.4	36.7	21.4	24.9	15.3	16.2	15.7	0.9	4.4	3.9
	新井宿	75.5	57.2	48.6	49.5	45.2	44.2	45.2	39.9	21.6	14.9	19.7	16.3	13.0	1.4	6.3	3.4
	嶺町	76.3	56.6	53.0	55.7	43.4	50.2	46.6	43.4	24.2	20.5	17.4	16.4	17.4	2.3	3.2	5.5
	田園調布	75.2	62.9	51.9	52.9	41.4	45.7	41.4	40.5	20.0	20.0	13.8	15.2	11.9	2.9	7.1	2.4
	鵜の木	71.7	63.5	53.4	53.4	45.7	42.0	37.4	37.9	25.6	22.4	23.3	17.4	14.6	1.8	6.4	2.7
	久が原	73.5	55.5	53.8	52.1	47.9	50.0	42.0	42.0	20.6	19.3	18.1	16.4	13.4	1.7	4.6	1.7
	雪谷	82.3	63.8	56.0	54.7	50.9	45.3	50.4	45.7	22.0	19.4	22.4	16.4	19.0	1.3	2.2	2.2
	千束	80.1	60.7	54.5	55.5	50.2	45.0	48.8	46.4	20.4	15.6	20.4	13.7	12.8	1.9	4.7	2.4
	糀谷	72.9	58.9	53.7	50.0	45.8	44.9	34.6	43.0	28.0	23.8	20.6	16.4	12.1	0.5	4.7	5.1
	羽田	71.4	55.5	50.7	43.2	45.4	41.4	32.6	39.2	24.7	19.4	15.0	11.9	13.7	0.4	5.3	3.1
	六郷	73.2	55.1	54.7	44.1	46.9	42.1	42.1	37.4	22.4	14.6	16.5	16.5	13.4	-	5.5	3.5
	矢口	77.4	61.3	54.7	51.9	47.3	41.6	46.5	40.7	29.6	22.6	25.5	17.3	18.9	1.6	4.9	2.5
	蒲田西	77.4	55.8	54.4	43.3	47.9	47.0	38.7	41.5	18.9	18.4	19.4	17.5	15.7	1.4	3.2	1.4
蒲田東	76.0	56.7	55.8	49.0	45.7	42.8	41.3	40.9	25.0	18.8	19.2	12.0	15.4	2.9	2.9	1.4	

平均より5ポイント以上高い

2. 充実した生活を送るために、実践していること

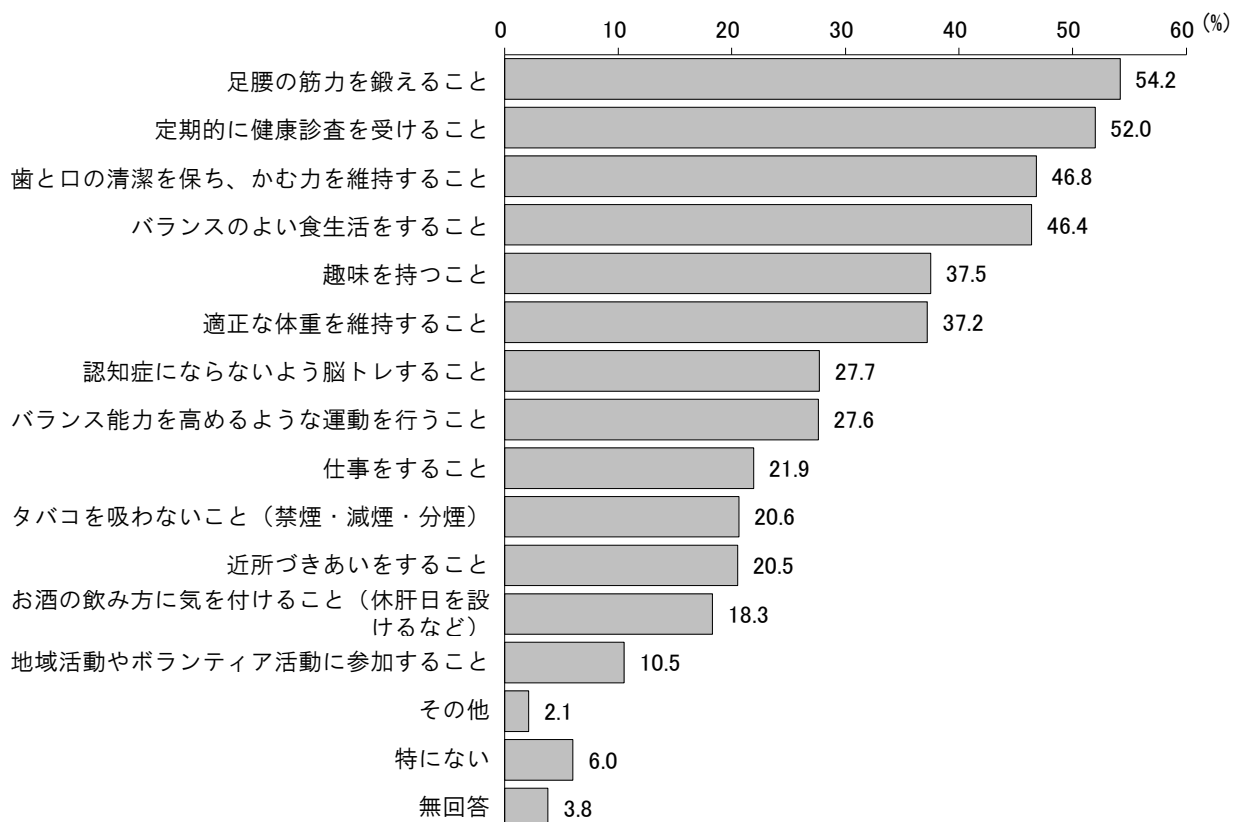
あなたは、いきいきと充実した高齢期の生活を送るために、今、実践していることはありますか。（あてはまるものすべてに○）

充実した生活を送るために今実践していることは、「足腰の筋力を鍛えること」が54.2%で最も高く、次いで「定期的に健康診査を受けること」（52.0%）、「歯と口の清潔を保ち、かむ力を維持すること」（46.8%）、「バランスのよい食生活をする事」（46.4%）となっています。

男女別にみると、上位の項目はすべて女性の方が男性より高く、特に「歯と口の清潔を保ち、かむ力を維持すること」（53.5%）と「バランスのよい食生活をする事」（52.0%）、「近所づきあいをする事」（25.5%）で10ポイント以上高くなっています。逆に「タバコを吸わないこと（禁煙・減煙・分煙）」（27.6%）と「お酒の飲み方に気を付けること（休肝日を設けるなど）」（27.1%）では男性の方が10ポイント以上高くなっています。

年齢別にみると、「認知症にならないよう脳トレすること」、「バランスのよい食生活をする事」は年齢が上がるほど割合が高くなっています。

世帯類型別にみると、ほとんどの項目で、「夫婦ふたり暮らし」の方が「ひとり暮らし」より高い割合となっています。



日常生活圏域別にみると、千束（64.5%）と嶺町（62.1%）で「足腰の筋力を鍛えること」が区平均より5ポイント以上高く、久が原（58.0%）、矢口（60.5%）で「定期的に健康診査を受けること」が区平均より5ポイント以上高くなっています。

		足腰の筋力を鍛えること	定期的に健康診査を受けること	歯と口の清潔を保持すること、かむ力を維持すること	バランスのよい食生活をする	趣味を持つこと	適正な体重を維持すること	認知症にならないよう脳トレすること	運動を行うこと	バランス能力を高めるような	仕事をする	タバコを吸わないこと（禁煙・減煙・分煙）	近所づきあいをすること	お酒の飲み方に気を付けること（休肝日を設けるなど）	地域活動やボランティア活動に参加すること	その他	特になし	無回答
全体		54.2	52.0	46.8	46.4	37.5	37.2	27.7	27.6	21.9	20.6	20.5	18.3	10.5	2.1	6.0	3.8	
性別	男性	51.2	51.9	38.1	39.3	33.2	35.3	23.4	25.6	26.3	27.6	14.1	27.1	9.4	1.4	7.2	3.4	
	女性	56.5	52.0	53.5	52.0	40.8	38.7	31.0	29.0	18.5	15.3	25.5	11.6	11.4	2.6	5.1	4.1	
年齢別	65～74歳	53.6	51.6	44.5	44.1	37.2	36.9	22.6	26.4	29.8	22.1	17.2	20.5	11.5	1.9	5.9	3.3	
	75～84歳	56.6	52.3	49.8	48.8	39.1	37.9	33.0	29.6	13.6	19.1	24.5	16.0	10.4	2.2	6.2	4.6	
	85歳以上	47.6	52.7	48.3	50.7	31.9	36.6	35.9	25.6	9.3	18.1	23.6	15.6	4.4	3.0	6.5	3.4	
世帯類型別	ひとり暮らし	54.1	49.5	46.1	46.5	36.4	37.4	28.3	28.9	20.5	21.0	20.3	17.9	9.5	2.8	6.0	2.9	
	夫婦ふたり暮らし	54.7	54.7	48.7	48.3	40.4	38.4	26.9	28.8	21.9	22.5	20.4	21.1	11.0	2.0	5.6	4.3	
	その他	54.2	51.1	45.6	45.1	35.3	36.2	28.3	25.6	22.5	18.7	20.7	16.0	10.3	1.6	6.4	3.6	
日常生活圏域別	大森東	52.8	53.2	42.9	45.5	36.4	35.9	26.4	26.8	23.4	19.5	21.2	17.7	10.8	0.9	6.9	3.0	
	大森西	53.7	53.7	43.7	39.4	34.2	36.8	28.1	21.6	25.5	19.0	21.2	18.2	12.1	0.4	3.9	5.2	
	入新井	57.9	46.2	51.6	46.6	34.8	44.3	26.7	37.1	19.9	24.4	19.9	15.4	7.2	2.7	7.2	5.4	
	馬込	54.1	54.1	51.5	46.4	38.2	39.1	26.2	27.0	22.7	21.5	24.0	18.0	9.4	3.9	3.0	3.9	
	池上	51.5	50.2	45.9	50.7	37.6	34.9	30.1	29.7	24.0	21.0	18.3	18.8	12.2	3.5	4.8	2.6	
	新井宿	57.2	49.5	49.5	45.2	41.3	33.7	27.9	29.3	17.8	20.2	18.3	19.7	13.9	1.0	7.2	2.9	
	嶺町	62.1	54.3	51.6	45.7	43.8	38.4	28.8	34.2	18.3	24.2	19.6	21.0	12.8	2.7	3.7	5.9	
	田園調布	59.0	53.8	52.4	51.4	44.8	37.6	27.1	31.9	19.0	24.3	14.8	20.0	5.7	2.9	7.6	2.4	
	鶉の木	48.9	47.5	48.9	50.2	34.2	34.2	30.6	25.1	21.5	21.5	23.3	21.5	11.9	2.7	8.7	2.3	
	久が原	53.4	58.0	49.6	52.9	42.4	35.7	31.1	29.0	25.2	24.4	20.6	21.4	5.9	2.9	5.9	2.1	
	雪谷	57.8	53.0	49.6	53.0	43.5	46.1	28.4	36.6	24.1	20.7	20.3	20.7	8.2	1.7	3.4	3.0	
	千束	64.5	55.9	54.5	55.0	44.5	43.6	28.0	37.0	21.3	17.1	19.9	18.0	12.3	2.4	3.3	2.4	
	糀谷	50.9	50.9	47.2	42.5	36.0	34.6	31.8	20.6	23.4	18.7	24.8	17.3	10.3	0.9	8.9	5.6	
	羽田	46.3	45.8	40.1	39.2	34.8	36.1	26.4	19.8	22.5	18.9	22.0	16.7	11.0	0.9	7.5	3.1	
	六郷	53.5	48.0	40.6	42.1	33.5	33.5	28.0	26.4	16.5	20.1	21.7	18.1	9.8	1.2	9.8	5.9	
	矢口	58.8	60.5	50.6	52.3	42.4	35.8	25.9	28.4	23.0	24.7	21.0	24.3	10.7	3.3	4.9	3.3	
	蒲田西	47.0	51.6	40.6	44.7	33.6	33.6	23.5	21.2	20.7	17.1	15.2	14.3	11.5	1.4	5.5	4.1	
蒲田東	57.2	52.4	48.1	46.6	32.7	38.9	26.9	27.9	23.1	19.7	21.2	14.4	12.5	3.4	7.2	1.0		

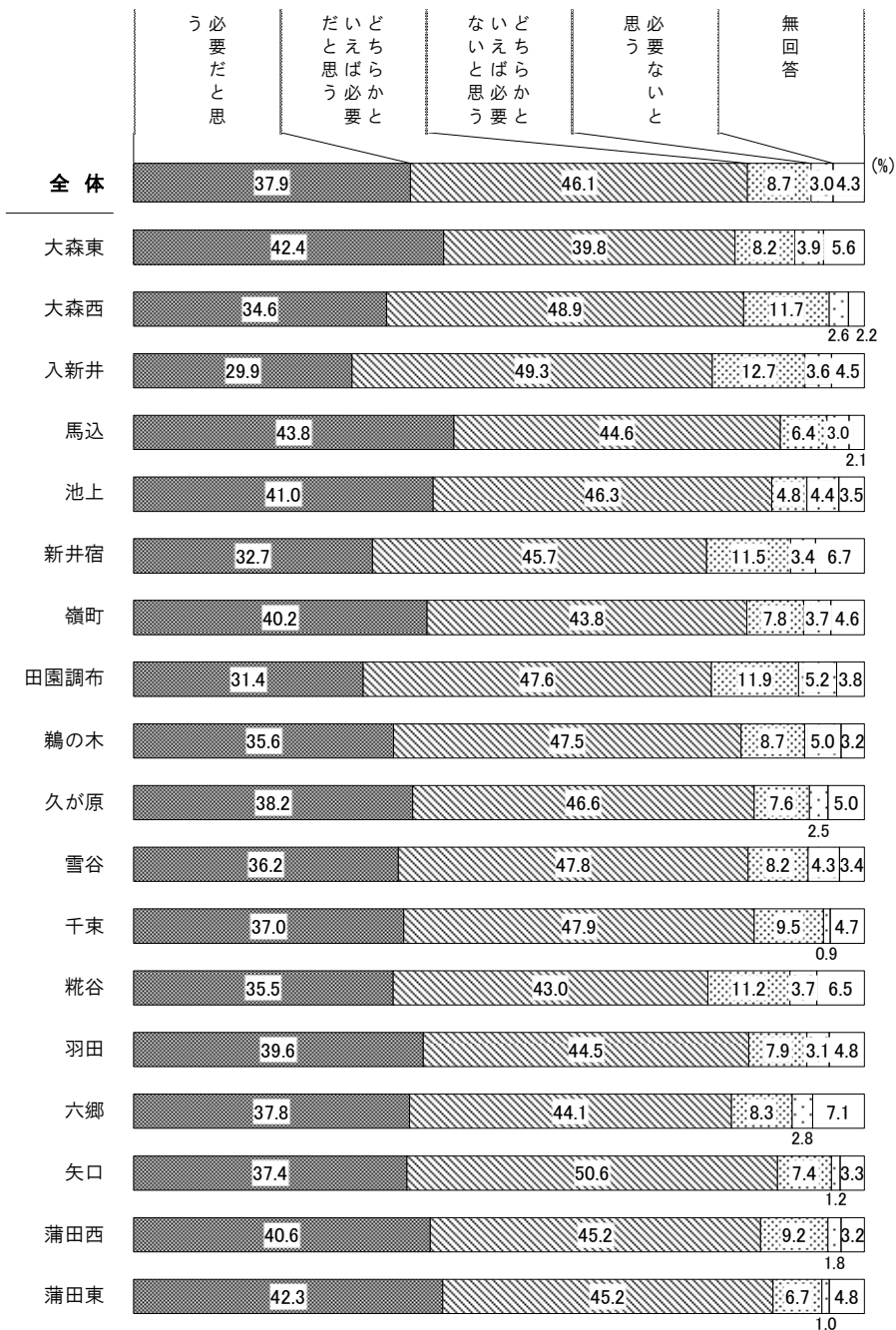
平均より5ポイント以上高い

3. 地域のつながりの必要性

あなたの日々の暮らしの中で、地域のつながり（住民同士の助け合い・支え合いなど）の必要性についてどのように感じていますか。（1つに〇）

地域のつながりの必要性については、「どちらかといえば必要だと思う」が46.1%で最も高く、「必要だと思う」(37.9%)を合わせた『必要だと思う』が84.0%となり、「どちらかといえば必要ないと思う」(8.7%)と「必要ないと思う」(3.0%)を合わせた『必要ないと思う』が11.7%となっています。

日常生活圏域別にみると、『必要だと思う』は、馬込が88.4%で最も高く、次いで矢口(88.0%)、蒲田東(87.5%)などとなっています。一方、『必要ないと思う』は入新井が16.3%で最も高く、次いで新井宿(14.9%)、糎谷(14.9%)などとなっています。

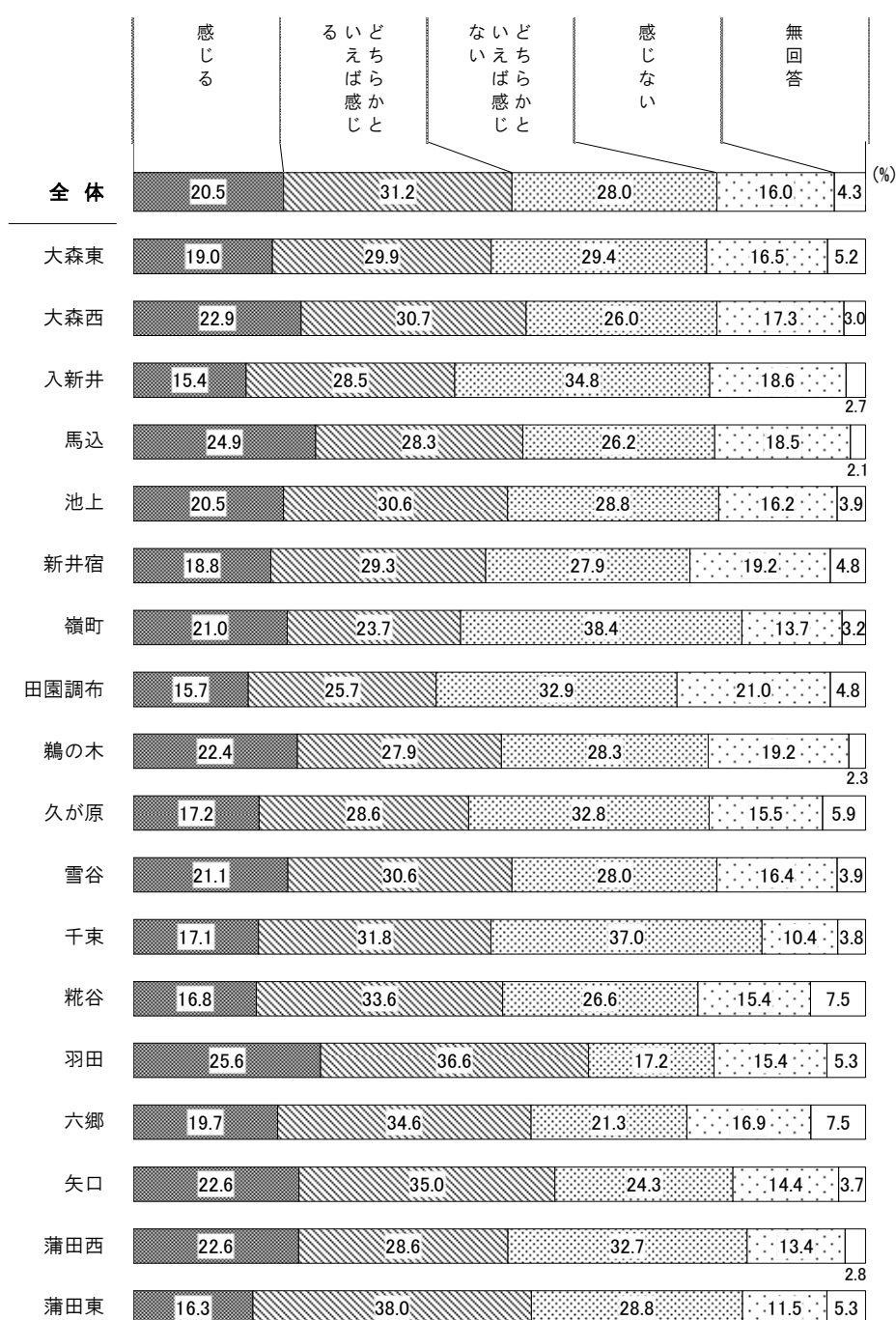


4. 地域のつながりの実感

あなたの日々の暮らしの中で、地域のつながり（住民同士の助け合い・支え合いなど）を実際に感じることはありますか。（1つに○）

地域のつながりの実感としては、「どちらかといえば感じる」が31.2%で最も高く、「感じる」（20.5%）を合わせた『感じる』が51.7%となり、「どちらかといえば感じない」（28.0%）と「感じない」（16.0%）を合わせた『感じない』は44.0%となっています。

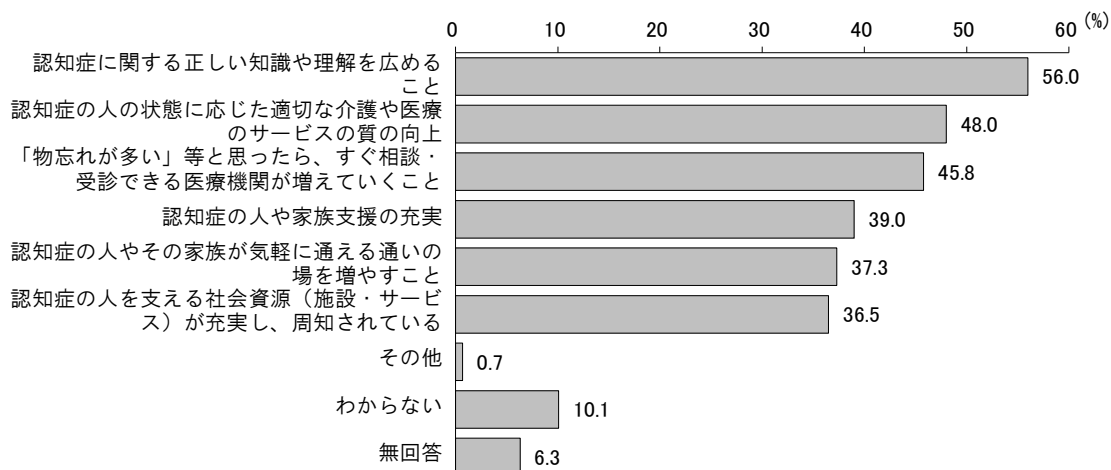
日常生活圏域別にみると、『感じる』は羽田が62.2%で最も高く、次いで矢口（57.6%）、六郷（54.3%）、蒲田東（54.3%）などとなっています。一方、『感じない』は、田園調布が53.9%で最も高く、次いで入新井（53.4%）、嶺町（52.1%）などとなっています。



5. 認知症の人との共生に必要な取り組みや支援

認知症の人と共に生きる、優しい地域づくりを実現するためには、どのような取り組みや支援が必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

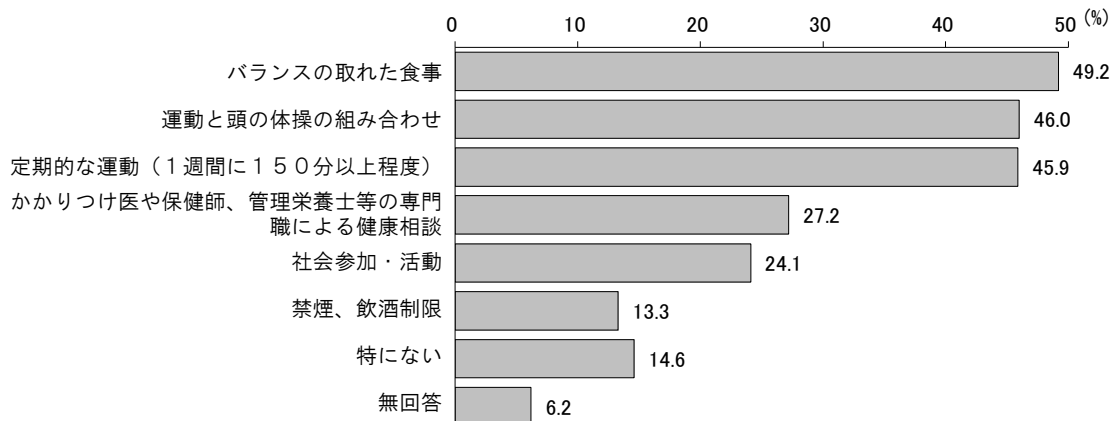
認知症の人と共に生きるやさしい地域づくりを実現するために必要な取り組みや支援として、「認知症に関する正しい知識や理解を広めること」が56.0%で最も高く、次いで「認知症の人の状態に応じた適切な介護や医療のサービスの質の向上」「物忘れが多い」等と思ったら、すぐ相談・受診できる医療機関が増えていくこと」(45.8%)などとなっています。



6. 認知症予防に向けた取り組み

あなたは、認知症予防（認知症になるのを遅らせる、認知症になっても進行を穏やかにする）に効果があると考えられるものの中で、ご自身で取り組んでいきたい（現在取り組んでいるものを含む）ことはありますか。(あてはまるものすべてに○)

認知症予防に効果があると考えられるもので、取り組みたいこととして、「バランスの取れた食事」が49.2%で最も高く、次いで「運動と頭の体操の組み合わせ」(46.0%)、「定期的な運動（1週間に150分以上程度）」(45.9%)、「かかりつけ医や保健師、管理栄養士等の専門職による健康相談」(27.2%)、「社会参加・活動」(24.1%)などとなっています。

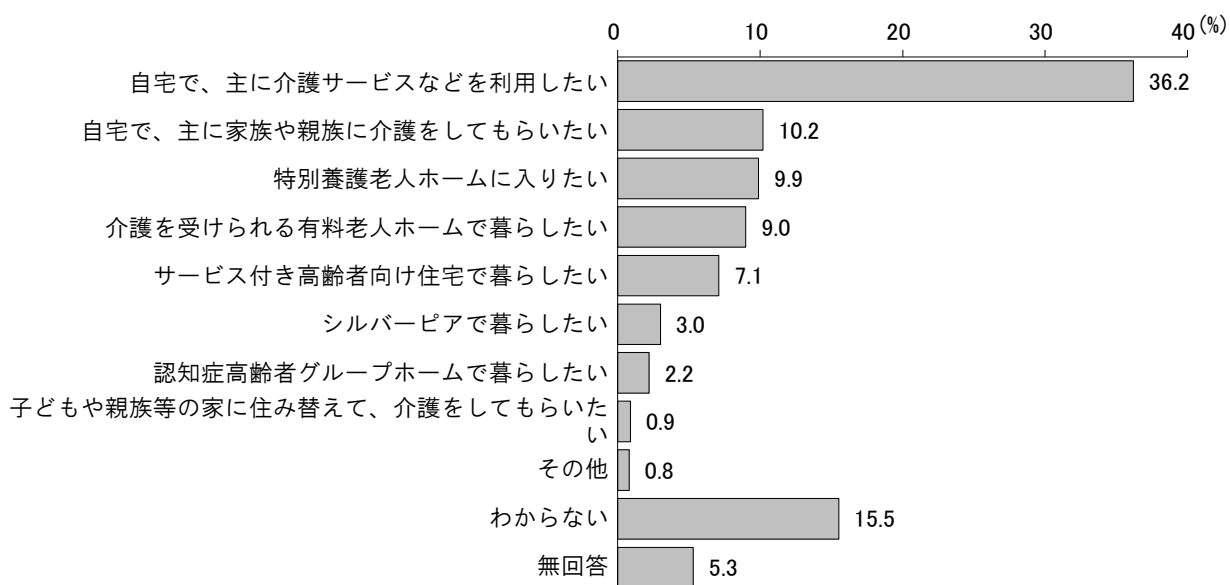


7. 介護が必要になった場合に希望する暮らし方

あなたは、万が一介護が必要になった場合、どのような暮らし方を希望しますか。

(もっとも近い考え1つに○)

介護が必要になった場合に希望する暮らし方は、「自宅で、主に介護サービスなどを利用したい」が36.2%で最も高く、「自宅で、主に家族や親族に介護をしてもらいたい」(10.2%)を合わせた『自宅』は46.4%となっています。一方、『自宅以外』では、「特別養護老人ホームに入りたい」が9.9%、「介護を受けられる有料老人ホームで暮らしたい」が9.0%などとなっています。



世帯類型別にみると、「その他」は『自宅』が51.4%で最も高く、「ひとり暮らし」は『自宅以外』が44.0%で最も高くなっています。

日常生活圏域別にみると、『自宅』は羽田（53.8%）、久が原（53.0%）、田園調布（52.4%）で平均より4ポイント以上高い割合となっています。

		自宅 で、主に 介護サー ビスなど を利用し たい	自宅 で、主に 家族や 親族に 介護 をして もらいた い	特別 養護 老人 ホーム に入り たい	介護 を受け られる 有料 老人 ホー ムで 暮ら した い	サー ビス 付き 高 齢 者 向 け 住 宅 で 暮 ら した い	シル バー ピア で 暮 ら した い	認 知 症 高 齢 者 グ ル ー プ ホ ー ム で 暮 ら した い	子 ど も や 親 族 等 の 家 に 住 み 替 え て、 介 護 を し て も ら いた い	そ の 他	わ か ら な い	無 回 答	《 自 宅 》	《 自 宅 以 外 》
全 体		36.2	10.2	9.9	9.0	7.1	3.0	2.2	0.9	0.8	15.5	5.3	46.4	32.9
世帯 類型 別	ひとり暮らし	29.8	3.1	12.6	10.9	10.0	6.2	2.0	1.2	1.1	17.9	5.2	32.9	44.0
	夫婦ふたり暮らし	37.8	11.6	9.3	9.8	6.4	2.1	2.2	1.0	1.0	14.0	4.7	49.4	31.8
	その他	38.6	12.8	9.1	7.2	5.9	2.1	2.3	0.5	0.6	15.3	5.5	51.4	27.7
日 常 生 活 圏 域 別	大森東	35.1	7.8	10.4	5.2	6.1	7.8	3.0	1.3	0.4	17.3	5.6	42.9	34.2
	大森西	30.3	11.3	12.6	8.7	6.1	1.7	3.5	2.2	0.9	16.9	6.1	41.6	35.7
	入新井	40.3	8.1	6.8	10.4	5.9	3.2	1.8	0.9	0.9	15.4	6.3	48.4	29.9
	馬込	40.8	7.7	9.0	10.7	3.9	3.9	2.1	0.4	0.4	15.9	5.2	48.5	30.4
	池上	35.8	7.4	10.5	7.4	10.9	2.6	2.2	0.9	1.3	16.6	4.4	43.2	35.8
	新井宿	33.2	11.1	6.3	8.7	10.1	5.3	1.9	0.5	0.5	15.9	6.7	44.3	33.3
	嶺町	40.2	9.1	5.9	11.0	9.6	2.7	2.3	1.4	0.5	13.7	3.7	49.3	33.4
	田園調布	41.9	10.5	6.2	12.9	6.2	-	1.0	-	0.5	15.2	5.7	52.4	26.8
	鵜の木	41.1	6.4	11.9	7.3	6.4	2.3	2.7	1.4	1.4	15.5	3.7	47.5	33.4
	久が原	40.8	12.2	13.0	7.1	8.0	1.3	1.7	-	1.3	10.9	3.8	53.0	32.4
	雪谷	37.5	11.2	10.8	7.8	8.6	3.4	2.2	1.3	1.7	12.5	3.0	48.7	35.8
	千束	39.8	9.0	9.5	11.8	9.5	0.9	1.9	0.9	0.9	12.3	3.3	48.8	35.4
	糀谷	27.1	13.6	7.9	8.9	7.9	5.1	3.3	-	0.5	18.2	7.5	40.7	33.6
	羽田	40.1	13.7	12.8	4.8	4.0	2.2	0.4	0.4	0.9	16.7	4.0	53.8	25.5
	六郷	35.4	11.0	9.8	8.3	7.9	3.1	2.8	1.6	0.8	13.4	5.9	46.4	34.3
	矢口	37.9	7.8	11.9	9.5	7.4	1.6	1.2	0.4	1.2	15.6	5.3	45.7	33.2
蒲田西	31.3	11.5	8.8	11.5	6.5	3.2	0.9	0.5	0.5	18.4	6.9	42.8	31.9	
蒲田東	35.1	10.1	10.1	9.6	4.8	4.8	3.4	0.5	0.5	15.4	5.8	45.2	33.7	

平均より4ポイント以上高い

8. 介護が必要になっても安心して暮らすための条件やサービス

あなたは、どのようなサービスや条件が整えば、介護が必要になっても在宅で安心して暮らし続けることができますか。(あてはまるものすべてに○)

介護が必要になっても在宅で安心して暮らせると思う条件やサービスとして、「24時間必要に応じて、ヘルパーや看護師が来てくれる」が56.3%で最も高く、次いで「介護や医療費に対する経済的負担が軽減される」(46.8%)、「家族が理解・協力してくれる」(41.4%)、「24時間必要に応じて、医師が往診してくれる」(41.3%)、「デイサービスやショートステイを利用したいときに利用できる」(41.1%) などとなっています。

世帯類型別にみると、多くの項目で「夫婦ふたり暮らし」より「ひとり暮らし」の方が低い割合となっています。逆に、「困ったときにいつでも相談できる場が身近にある」(42.6%)と「声かけや見守りをしてくれるなど地域の支えがある」(21.6%)は「ひとり暮らし」が最も高くなっています。

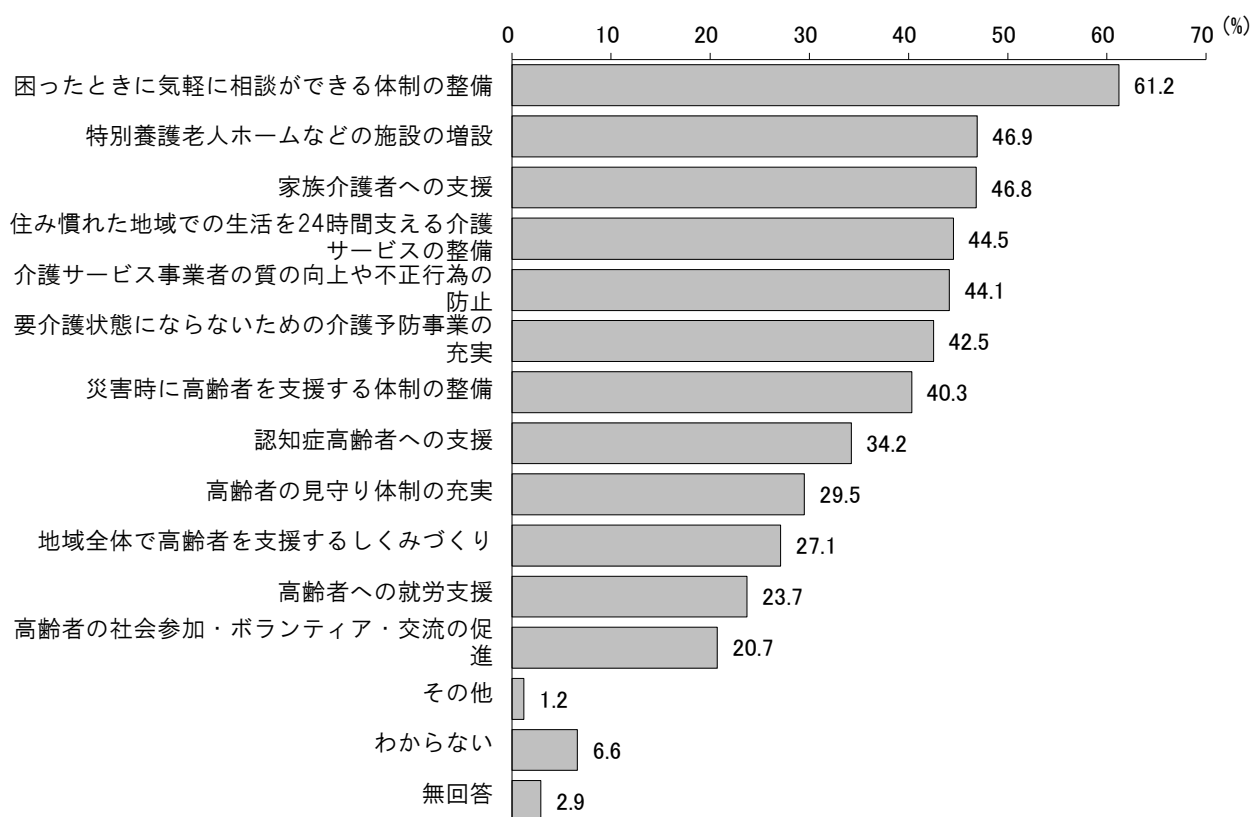
		(%)												
		24時間ヘルパーや看護師が必要に応じて来てくれる	24時間必要に応じて、医師が往診してくれる	デイサービスやショートステイを利用したいときに利用できる	配食や買い物、ゴミ出し等の生活面を支援してくれる	認知症に対応可能な医療・介護サービスが充実している	段差がないなど住まいの構造や設備が整っている	介護や医療費に対する経済的負担が軽減される	困ったときにいつでも相談できる場が身近にある	声かけや見守りがある	家族が理解・協力してくれる	その他	わからない	無回答
全体		56.3	41.3	41.1	38.6	35.1	20.9	46.8	38.8	19.5	41.4	1.3	10.7	6.6
世帯類型別	ひとり暮らし	50.5	36.7	32.8	41.5	30.6	20.0	42.8	42.6	21.6	20.2	1.4	15.6	7.2
	夫婦ふたり暮らし	61.6	44.3	43.0	42.0	36.1	22.1	47.3	40.3	20.2	45.9	1.5	9.0	6.1
	その他	54.5	41.1	44.1	33.4	36.7	20.1	48.9	35.4	17.8	48.7	1.1	9.6	6.6

9. 区が取り組むべきこと

大田区が特に力を入れて取り組むべきことは、次のうちどれだと思いますか。

(あてはまるものすべてに○)

区が特に力を入れて取り組むべきことは、「困ったときに気軽に相談ができる体制の整備」が61.2%で最も高く、次いで「特別養護老人ホームなどの施設の増設」(46.9%)、「家族介護者への支援」(46.8%)、「住み慣れた地域での生活を24時間支える介護サービスの整備」(44.5%)、「介護サービス事業者の質の向上や不正行為の防止」(44.1%)、「要介護状態にならないための介護予防事業の充実」(42.5%)などとなっています。



10. 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の分析

(1) 分析の目的

高齢者一般調査は、国が提示した『介護予防・日常生活圏域ニーズ調査』の調査項目を組み込んで実施しました。

『介護予防・日常生活圏域ニーズ調査』は、要介護状態になる前の高齢者について、「要介護状態になるリスクの発生状況」、「各種リスクに影響を与える日常生活の状況」を把握し、地域の課題を特定することを目的に構成されたものです。

本項では、『介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 実施の手引き』において、リスク把握の考え方を示された項目について、分析を行いました。また、日常生活圏域別の分析においては、一部を除いて区平均値と比較して4ポイント以上の差がある場合に言及しました。

(2) 分析の構成

分析の構成は、10の評価項目におけるリスクについて掲載しています。なお、以下の表は、高齢者一般調査における該当した設問を記しています。

	高齢者一般調査
1 運動器機能	問14 からだを動かすこと (1)～(5)
2 転倒	問14 からだを動かすこと (4)・(5)
3 閉じこもり	問14 からだを動かすこと (6)・(7)
4 低栄養	問15 食べること (1)・(2)
5 口腔機能(咀嚼機能)	問15 食べること (3)～(5)
6 義歯の有無と歯数	問15 食べること (6)
7 孤食	問15 食べること (7)
8 認知機能	問16 毎日の生活について (1)
9 手段的日常生活動作(IADL)	問16 毎日の生活について (2)～(6)
10 うつ傾向	問22 健康について (3)・(4)

11. 評価項目別の結果

(1) 運動器機能

設問内容 (問14)	選択肢
(1) 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか。	1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない
(2) 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか。	1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない
(3) 15分位続けて歩いていますか。	1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない
(4) 過去1年間に転んだことがありますか。	1. 何度もある 2. 1度ある 3. ない
(5) 転倒に対する不安は大きいですか。	1. とても不安である 2. やや不安である 3. あまり不安でない 4. 不安でない

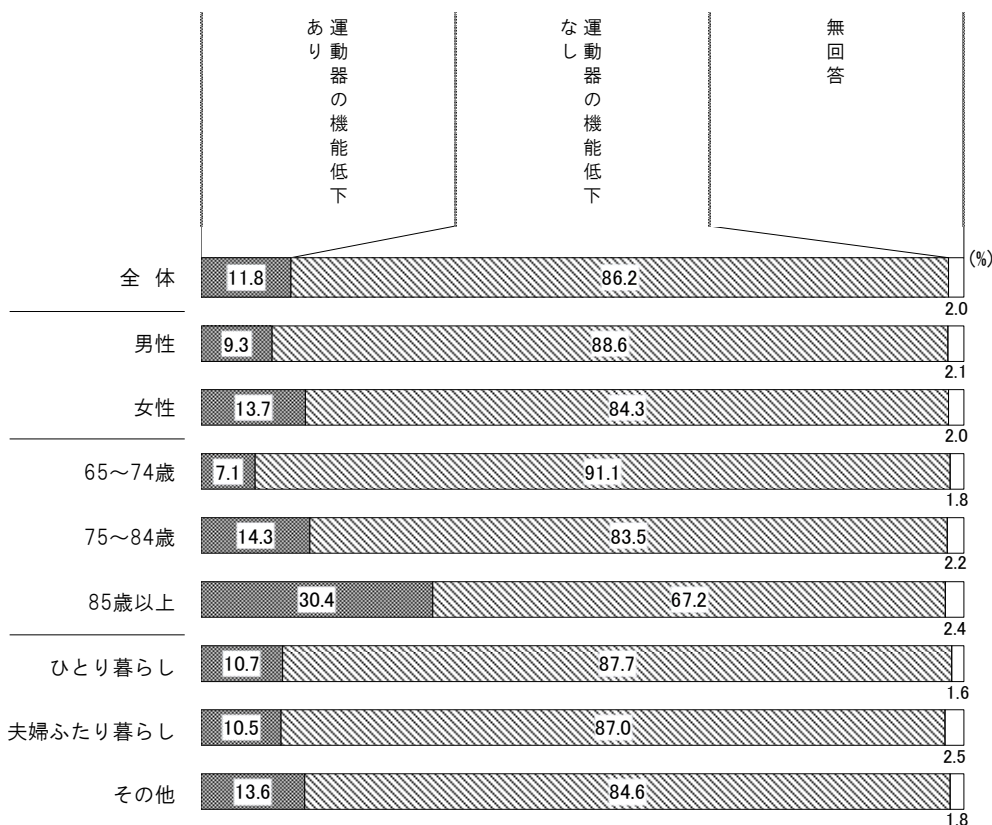
運動器機能については、5つの設問のうち3問以上で機能低下に該当する選択肢（上記の網掛け部分の選択肢）と回答している場合に「運動器機能の低下あり」と判定します。

「運動器機能の低下あり」は、11.8%となっています。

男女別にみると、「運動器機能の低下あり」は、女性（13.7%）の方が男性（9.3%）より高くなっています。

年齢別にみると、「運動器機能の低下あり」は、年齢が上がるほど高くなっています。

世帯類型別にみると、その他（13.6%）が最も高くなっています。



(2) 転倒

設問内容 (問14)	選択肢
(4) 過去1年間に転んだことがありますか。	1. 何度もある 2. 1度ある 3. ない
(5) 転倒に対する不安は大きいですか。	1. とても不安である 2. やや不安である 3. あまり不安でない 4. 不安でない

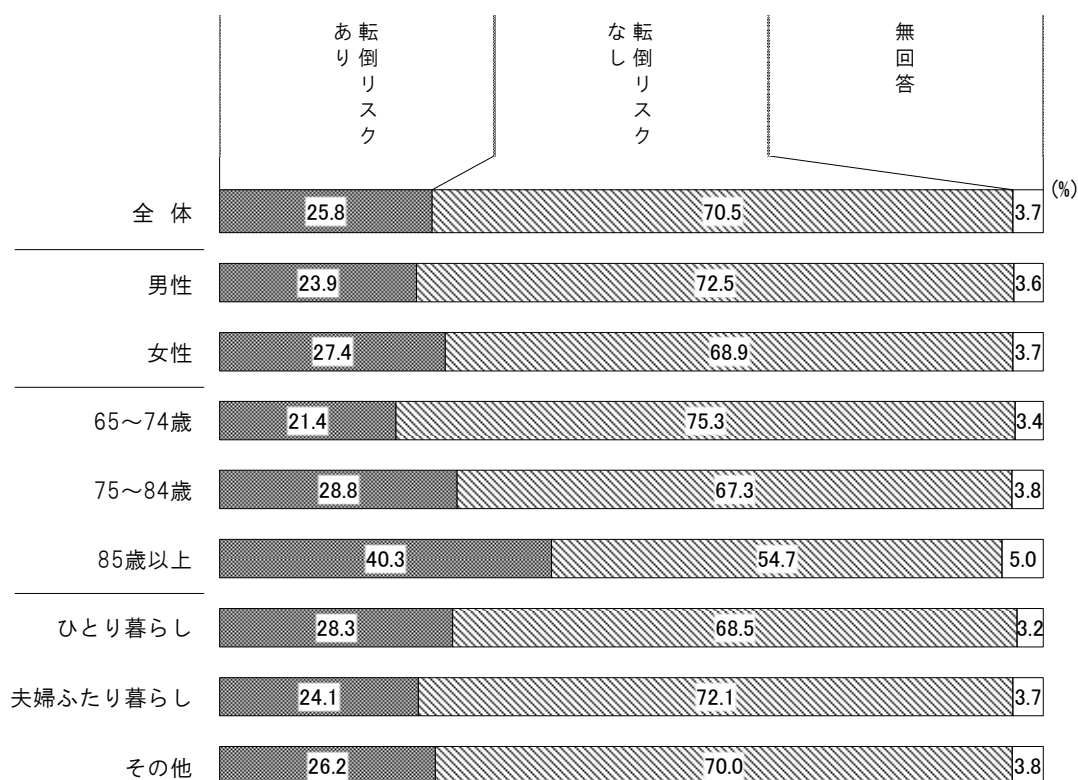
転倒については、過去1年間の転倒経験で、「何度もある」、「1度ある」(上記の網掛け部分の選択肢)と回答している場合、転倒リスクのある高齢者と判定します。

「転倒リスクあり」は、25.8%となっています。

男女別にみると、「転倒リスクあり」は、女性(27.4%)の方が男性(23.9%)より高くなっています。

年齢別にみると、「転倒リスクあり」は、年齢が上がるほど高くなり、「85歳以上」では40.3%となっています。

世帯類型別にみると、「ひとり暮らし」(28.3%)の方が、「夫婦ふたり暮らし」(24.1%)より高くなっています。



(3) 閉じこもり

設問内容 (問14)	選択肢
(6) 週に1回以上は外出していますか。	1. ほとんど外出しない 2. 週1回 3. 週2～4回 4. 週5回以上
(7) 昨年と比べて外出の回数が減っていますか。	1. とても減っている 2. 減っている 3. あまり減っていない 4. 減っていない

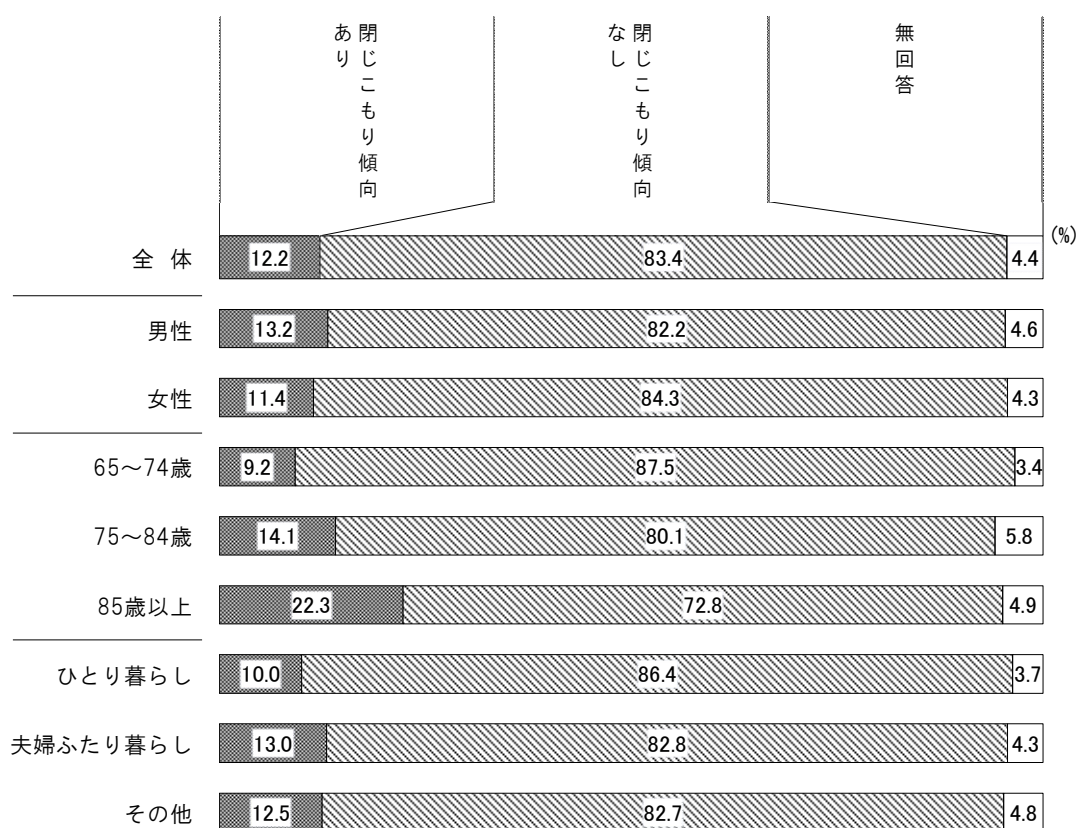
閉じこもりについては、一週間の外出状況で「ほとんど外出しない」または「週1回」（上記の網掛け部分の選択肢）と回答している場合に、閉じこもり傾向のある高齢者と判定します。

「閉じこもり傾向あり」は、は12.2%となっています。

男女別にみると、「閉じこもり傾向あり」は、特に大きな違いはみられません。

年齢別にみると、「閉じこもり傾向あり」は、年齢が上がるほど高くなり、「85歳以上」で22.3%となっています。

世帯類型別にみると、「夫婦ふたり暮らし」（13.0%）の方が、「ひとり暮らし」（10.0%）よりも高くなっています。



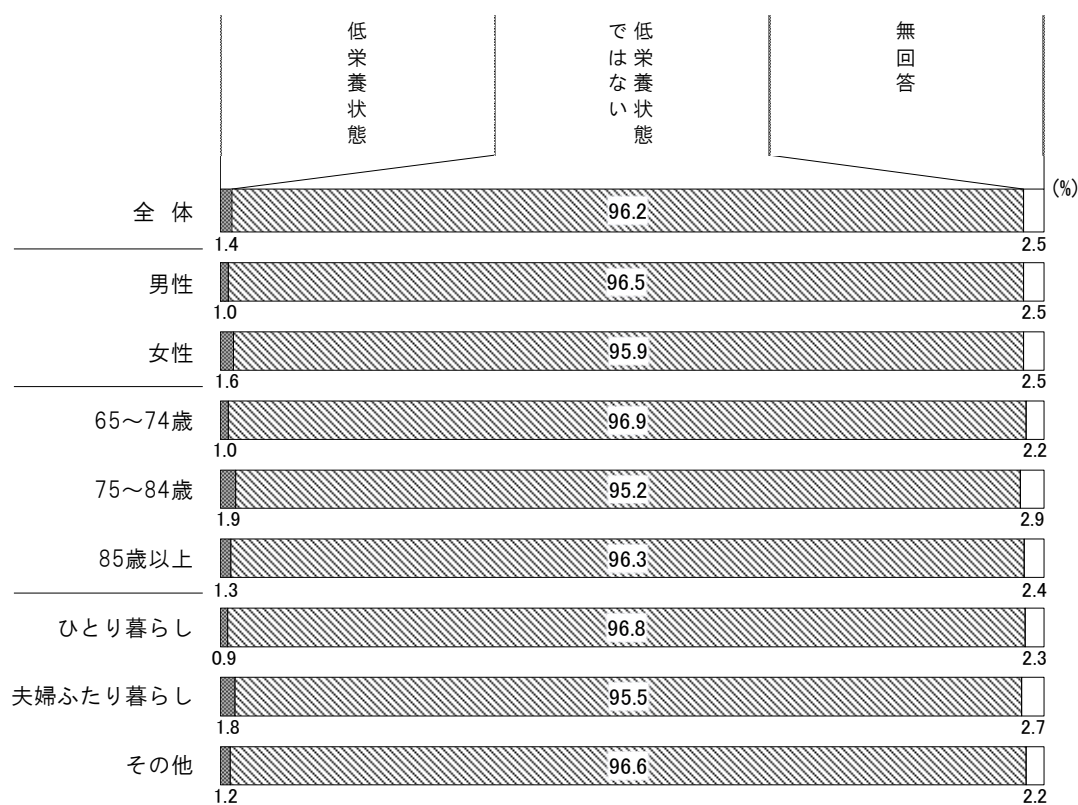
(4) 低栄養

設問内容 (問15)	選択肢
(1) 身長と体重をお書きください。	() cm () kg
(2) 6か月間で2～3 kg以上の体重減少がありましたか。	1. はい 2. いいえ

低栄養については、身長と体重から算出されるBMI（体重（kg）÷{身長（m）×身長（m）}）が、18.5未満の場合に低栄養が疑われる高齢者となり、かつ、直近の6か月間に2～3 kg以上の体重減少があった場合に「低栄養状態」となります。

「低栄養状態」は、1.4%となっています。

男女別、年齢別、世帯類型別にみると、特に大きな違いはみられません。



(5) 口腔機能（咀嚼機能）

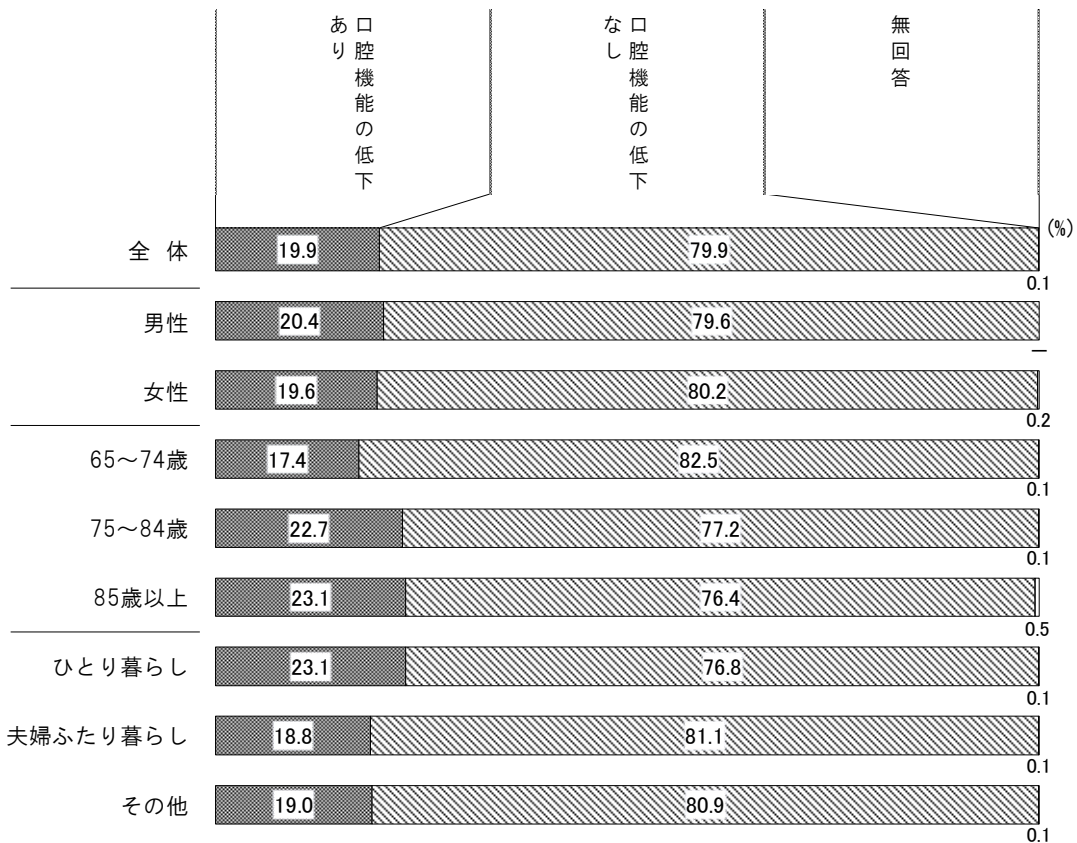
設問内容（問15）	選択肢
(3) 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか。	1. はい 2. いいえ
(4) お茶や汁物等でむせることがありますか。	1. はい 2. いいえ
(5) 口の渇きが気になりますか。	1. はい 2. いいえ

口腔機能については、(3)の設問で「はい」（上記の網掛け部分の選択肢）と回答した場合に、「咀嚼機能の低下が疑われる高齢者」と判定します。さらに(4)と(5)を加えた3設問のうち2設問で「はい」と回答した場合に「口腔機能（咀嚼機能）の低下あり」と判定します。

「口腔機能（咀嚼機能）の低下あり」は19.9%となっています。

男女別にみると、「口腔機能（咀嚼機能）の低下あり」は特に大きな違いはみられません。年齢別にみると、「口腔機能（咀嚼機能）の低下あり」は「65～74歳」では17.4%ですが、「75～84歳」（22.7%）、「85歳以上」（23.1%）になると2割を超えています。

世帯類型別にみると、「口腔機能（咀嚼機能）の低下あり」は「ひとり暮らし」が23.1%で最も高くなっています。



(6) 義歯の有無と歯数

設問内容 (問15)	選択肢
(6) 歯の数と入れ歯の利用状況を教えてください。(成人の歯の総本数は、親知らずを含めて32本です)	1. 自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用 2. 自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし 3. 自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用 4. 自分の歯は19本以下、入れ歯の利用なし

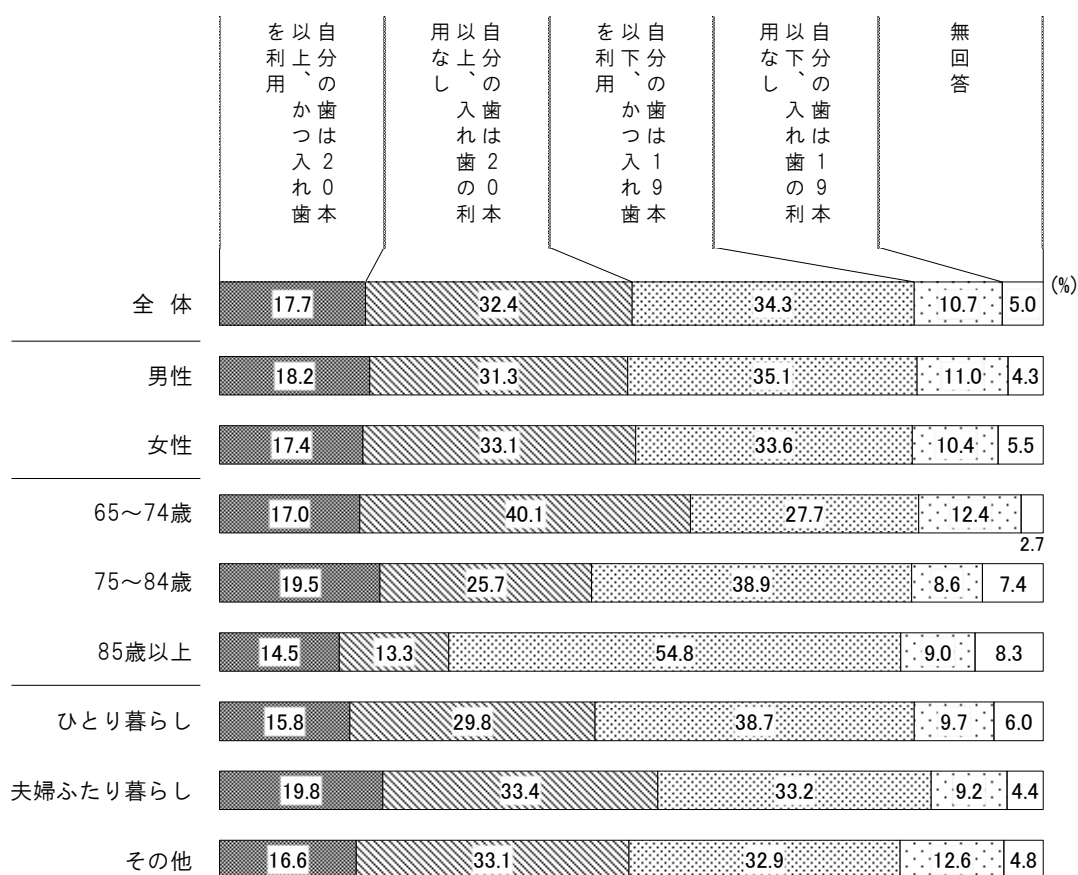
この設問は、高齢者の口腔の健康状態や義歯の使用状況を把握するための設問です。

歯の数と入れ歯の利用状況としては、「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」が34.3%で最も高く、「自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用」(17.7%)を合わせた『入れ歯を利用』は52.0%となっています。また、「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」(34.3%)と「自分の歯は19本以下、入れ歯の利用なし」(10.7%)を合わせた『自分の歯は19本以下』は45.0%となっています。

男女別にみると、特に大きな違いはみられません。

年齢別にみると、『自分の歯は19本以下』は、「65～74歳」40.1%ですが、「75～84歳」では47.5%、「85歳以上」では63.8%と高くなっています。

世帯類型別にみると、『自分の歯は19本以下』は、「ひとり暮らし」が48.4%で最も高くなっています。



(7) 孤食

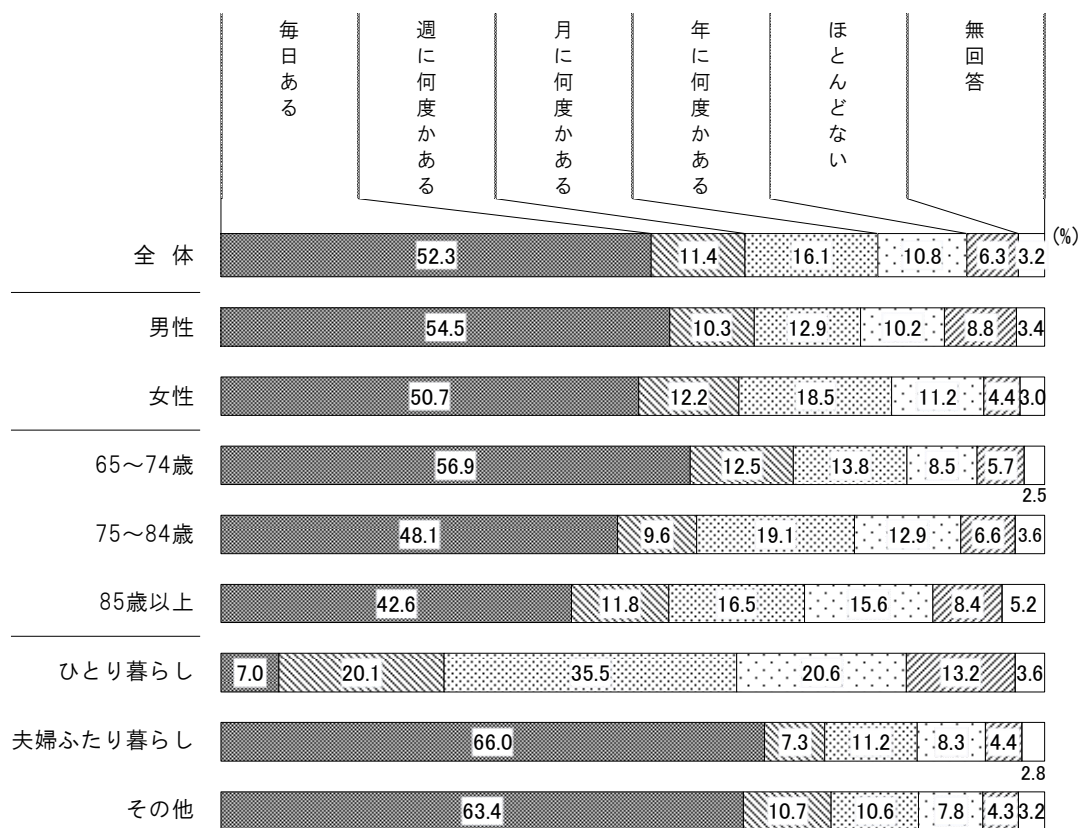
設問内容 (問15)	選択肢
(7) どなたかと食事をともにする機会がありますか。	1. 毎日ある 2. 週に何度かある 3. 月に何度かある 4. 年に何度かある 5. ほとんどない

この設問は、孤食の状況を把握するための設問です。孤食ではなく誰かと食事をともにする機会（共食）が「毎日ある」は52.3%と5割を超えています。

男女別にみると、「毎日ある」は、男性（54.5%）の方が女性（50.7%）より高くなっています。

年齢別にみると、「毎日ある」は、年齢が上がるほど割合が低くなっています。

世帯類型別にみると、「毎日ある」と「週に何度かある」を合わせた『週に1回以上は誰かと食事をともにする』は「ひとり暮らし」で27.1%となっています。



(8) 認知機能

設問内容 (問16)	選択肢
(1) 物忘れが多いと感じますか。	1. はい 2. いいえ

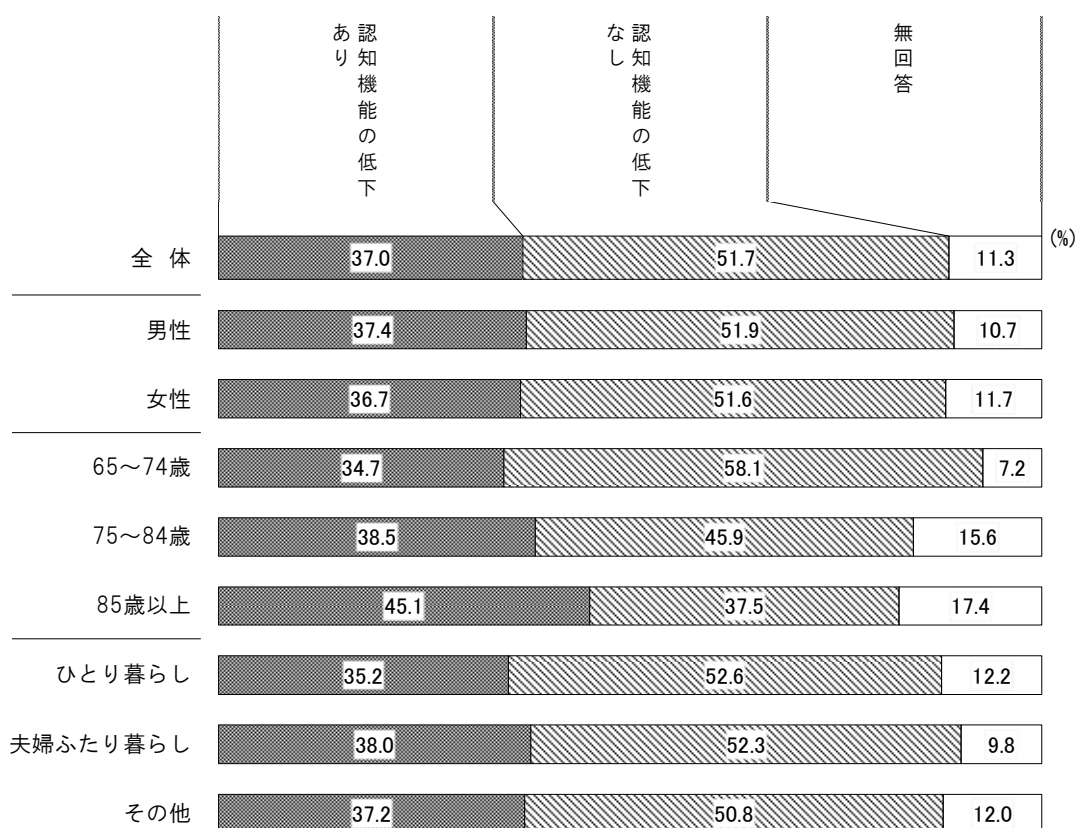
認知機能については、「はい」(上記の網掛け部分の選択肢)と回答している場合、「認知機能の低下あり」と判定します。

「認知機能の低下あり」は37.0%となっています。

男女別にみると、「認知機能の低下あり」は、特に大きな違いはみられません。

年齢別にみると、「認知機能の低下あり」は、年齢が上がるほど高くなり、「85歳以上」で45.1%となっています。

世帯類型別にみると、「認知機能の低下あり」は、特に大きな違いはみられません。



(9) 手段的日常生活動作 (I A D L)

設問内容 (問16)	選択肢
(2) バスや電車を使って1人で外出していますか。(自家用車でも可)	1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない
(3) 自分で食品・日用品の買物をしていますか。	1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない
(4) 自分で食事の用意をしていますか。	1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない
(5) 自分で請求書の支払いをしていますか。	1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない
(6) 自分で預貯金の出し入れをしていますか。	1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない

これら設問は、手段的日常生活動作 (I A D L) を把握する設問です。

『介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 実施の手引き』では、リスクについての判定については記載されていませんが、ここでは、老研式活動能力指標による判定を用いて評価しています。

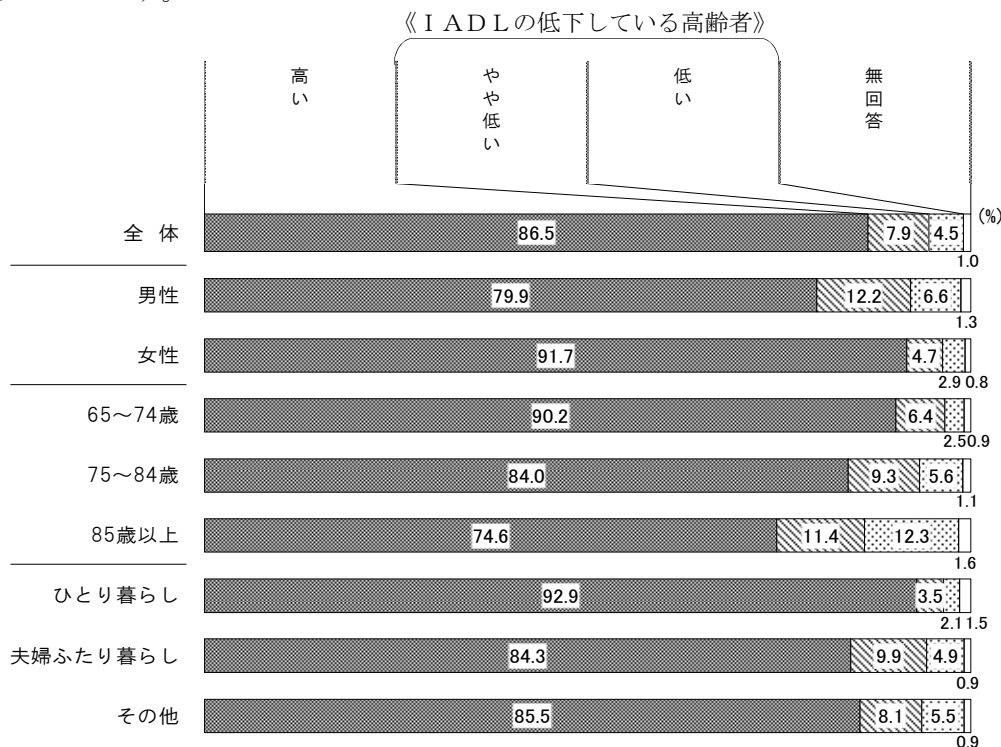
具体的には、各設問について、「できるし、している」か「できるけどしていない」を1点、「できない」を0点と点数化し、5つの設問の合計を判定します。判定の区分は5点が「高い」、4点が「やや低い」、0～3点が「低い」となり、「4点以下」は『IADLの低下している高齢者』と判定します。

『IADLの低下している高齢者』は、は12.4%となっています。

男女別にみると、『IADLの低下している高齢者』は、男性 (18.8%) の方が女性 (7.6%) より高くなっています。

年齢別にみると、『IADLの低下している高齢者』は、年齢が上がるほど高くなっています。

世帯類型別にみると、『IADLの低下している高齢者』は、「ひとり暮らし」(5.6%) が最も低くなっています。



(10) うつ傾向

設問内容 (問22)	選択肢
(3) この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか。	1. はい 2. いいえ
(4) この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか。	1. はい 2. いいえ

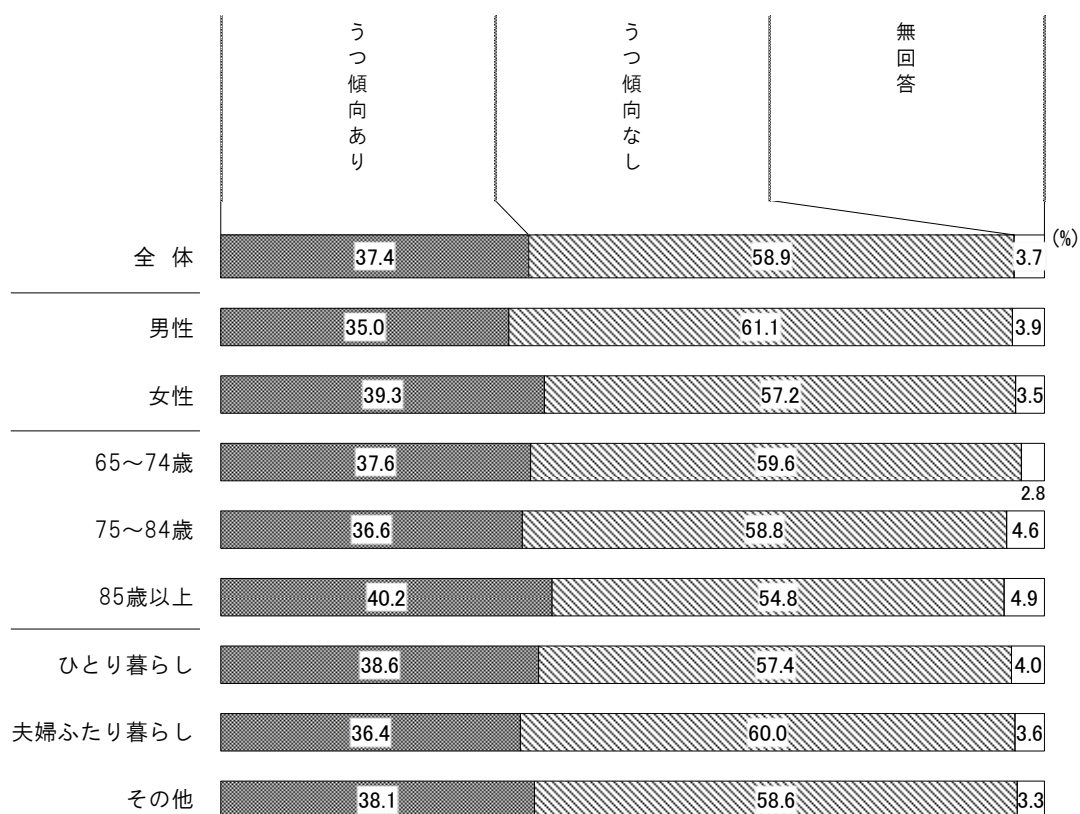
うつ傾向については、2つの設問でいずれか1つでも「はい」(上記の網掛け部分の選択肢)が回答された場合、「うつ傾向あり」と判定します。

「うつ傾向あり」は、37.4%となっています。

男女別にみると、「うつ傾向あり」は、女性(39.3%)の方が男性(35.0%)より高くなっています。

年齢別にみると、「うつ傾向あり」は、「85歳以上」(40.2%)で最も高くなっています。

世帯類型別にみると、「うつ傾向あり」は、特に大きな違いはみられません。



第3章 要介護認定者調査結果

1. 要介護状態の維持・改善に向けて取り組んだほうがよいこと

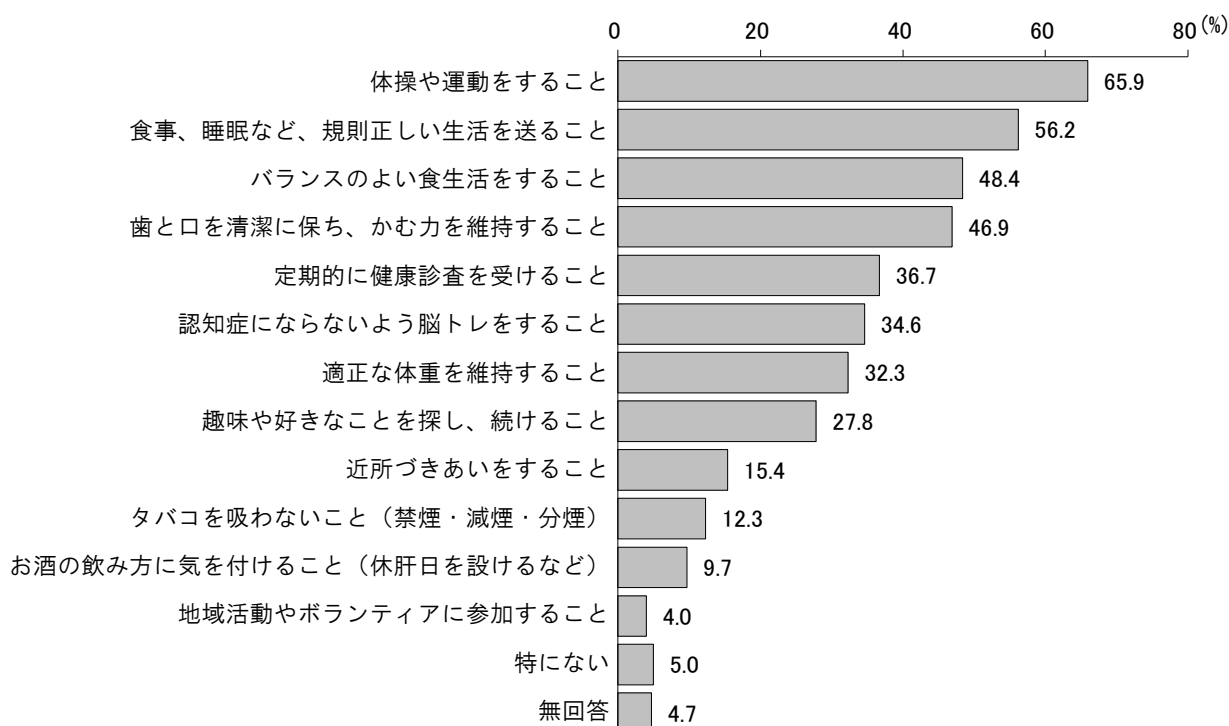
あなたは、要介護度状態の維持・改善に向けて、これから、取り組んだほうがよいことは何だと思いませんか。（あてはまるものすべてに○）

要介護状態の維持・改善のために取り組んだ方がよいと思うことは、「体操や運動をすること」が65.9%で最も高くなっています。次いで、「食事、睡眠など、規則正しい生活を送ること」（56.2%）、「バランスのよい食生活をすること」（48.4%）、「歯と口を清潔に保ち、かむ力を維持すること」（46.9%）などとなっています。

男女別にみると、「歯と口を清潔に保ち、かむ力を維持すること」（49.5%）、「タバコを吸わないこと（禁煙・減煙・分煙）」（17.9%）、「お酒の飲み方に気を付けること（休肝日を設けるなど）」（15.9%）は男性の方が高くなっており、「認知症にならないよう脳トレをすること」（36.3%）、「近所づきあいをすること」（18.0%）は女性の方が高くなっています。

年齢別にみると、「バランスのよい食生活をすること」と「認知症にならないよう脳トレをすること」については、『75歳以上』で高くなっています。また、「適正な体重を維持すること」と「お酒の飲み方に気を付けること（休肝日を設けるなど）」については、年齢が下がるほど割合が高くなっています。

世帯類型別にみると、多くの項目で「ひとり暮らし」の割合が高くなっています。



日常生活圏域別にみると、「体操や運動をすること」は六郷（80.6%）、池上（71.7%）、新井宿（71.4%）で、「食事、睡眠など、規則正しい生活を送ること」は千束（65.5%）、雪谷（63.4%）、嶺町（62.8%）、羽田（61.2%）で、「バランスのよい食生活を送ること」は新井宿（58.2%）、鶉の木（57.4%）、六郷（57.0%）、嶺町（55.8%）、田園調布（53.5%）で、それぞれ平均より5ポイント以上高くなっています。

(%)

		体操や運動をすること	食事、睡眠など、規則正しい生活を送ること	バランスのよい食生活を送ること	歯と口を清潔に保ち、かむ力を維持すること	定期的に健康診査を受けること	認知症にならないよう脳トレをすること	適正な体重を維持すること	趣味や好きなことを探し、続けること	近所づきあいをすること	タバコを吸わないこと（禁煙・減煙・分煙）	お酒の飲み方に気を付けること（休肝日を設けるなど）	地域活動やボランティアに参加すること	特にない	無回答
全体		65.9	56.2	48.4	46.9	36.7	34.6	32.3	27.8	15.4	12.3	9.7	4.0	5.0	4.7
性別	男性	63.8	54.4	46.4	49.5	38.1	32.0	32.4	26.4	11.2	17.9	15.9	4.7	5.8	4.7
	女性	67.2	57.3	49.7	45.3	35.8	36.3	32.2	28.7	18.0	8.8	5.8	3.6	4.6	4.7
年齢別	65～74歳	67.1	53.6	43.2	44.7	34.0	29.3	41.7	24.8	11.4	13.2	13.8	3.5	8.0	3.1
	75～84歳	67.7	54.9	48.7	45.6	36.6	35.0	34.1	29.0	15.2	13.2	10.5	5.4	4.7	5.4
	85歳以上	63.6	58.3	49.8	49.0	37.6	35.9	27.5	27.6	16.9	11.0	7.5	2.7	4.5	4.4
世帯類型別	ひとり暮らし	67.1	61.3	53.7	48.5	38.2	41.7	34.0	31.9	24.7	13.5	8.6	5.5	2.7	4.4
	夫婦ふたり暮らし	64.4	53.7	45.8	46.7	35.8	31.9	32.8	27.7	13.4	14.8	14.1	4.4	5.7	5.8
	その他	66.5	55.6	47.9	46.7	37.0	33.7	31.1	26.1	12.8	10.1	7.3	3.1	5.6	4.2
日常生活圏域別	大森東	62.8	54.7	48.8	54.7	29.1	34.9	34.9	25.6	16.3	10.5	9.3	2.3	3.5	5.8
	大森西	68.4	55.8	51.6	53.7	42.1	34.7	27.4	25.3	14.7	9.5	8.4	1.1	1.1	3.2
	入新井	59.8	54.0	40.2	37.9	34.5	24.1	25.3	25.3	11.5	4.6	3.4	3.4	11.5	9.2
	馬込	66.3	54.7	36.0	38.4	32.6	30.2	31.4	22.1	14.0	14.0	10.5	3.5	5.8	9.3
	池上	71.7	46.7	37.0	46.7	31.5	33.7	27.2	30.4	16.3	12.0	8.7	4.3	4.3	4.3
	新井宿	71.4	60.4	58.2	44.0	45.1	44.0	35.2	26.4	18.7	8.8	5.5	5.5	2.2	6.6
	嶺町	67.4	62.8	55.8	44.2	37.2	30.2	30.2	33.7	18.6	12.8	14.0	5.8	4.7	3.5
	田園調布	66.3	54.7	53.5	46.5	29.1	31.4	34.9	32.6	12.8	10.5	9.3	7.0	1.2	5.8
	鶉の木	62.4	55.4	57.4	48.5	47.5	32.7	31.7	30.7	11.9	11.9	9.9	3.0	4.0	3.0
	久が原	61.5	53.8	51.6	56.0	38.5	39.6	30.8	28.6	19.8	17.6	17.6	5.5	5.5	6.6
	雪谷	61.0	63.4	45.1	48.8	29.3	36.6	31.7	30.5	13.4	14.6	9.8	3.7	6.1	2.4
	千束	60.7	65.5	47.6	57.1	33.3	35.7	34.5	34.5	13.1	11.9	8.3	9.5	4.8	4.8
	糀谷	58.0	53.1	48.1	39.5	37.0	29.6	28.4	28.4	4.9	12.3	6.2	1.2	6.2	8.6
	羽田	59.2	61.2	46.9	48.0	35.7	33.7	34.7	30.6	18.4	9.2	7.1	5.1	6.1	5.1
	六郷	80.6	59.1	57.0	46.2	45.2	40.9	41.9	28.0	20.4	20.4	18.3	6.5	2.2	2.2
	矢口	70.1	53.6	40.2	46.4	33.0	37.1	35.1	26.8	15.5	11.3	8.2	5.2	6.2	6.2
	蒲田西	64.8	51.4	52.4	43.8	36.2	33.3	31.4	21.0	17.1	10.5	4.8	-	6.7	2.9
蒲田東	57.7	55.8	47.1	45.2	33.7	36.5	33.7	29.8	16.3	11.5	11.5	5.8	10.6	1.9	

平均より5ポイント以上高い

2. 要介護状態の維持・改善に向けて実践していること

あなたは、要介護度状態の維持・改善に向けて、今、実践していることはありますか。

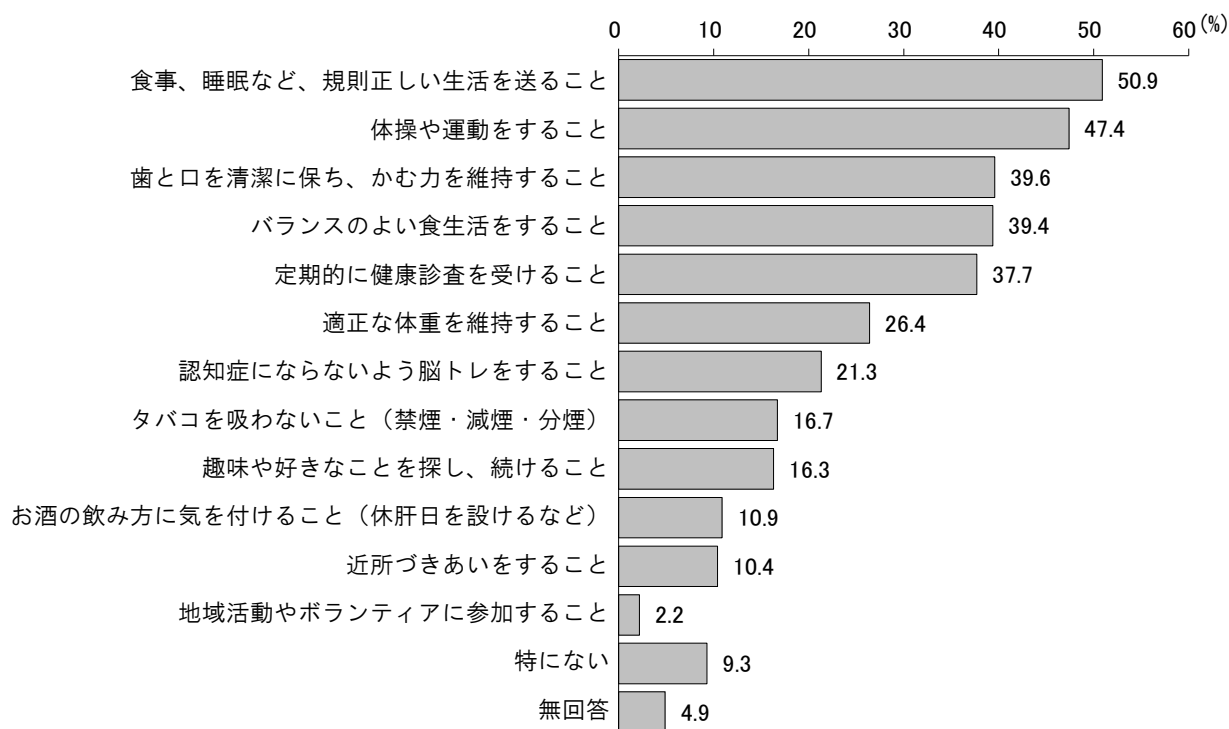
(あてはまるものすべてに○)

要介護状態の維持・改善のために、今実践していることは、「食事、睡眠など、規則正しい生活を送ること」が50.9%で最も高くなっています。次いで、「体操や運動をすること」(47.4%)、「歯と口を清潔に保ち、かむ力を維持すること」(39.6%)、「バランスのよい食生活を送ること」(39.4%)、「定期的に健康診査を受けること」(37.7%) などとなっています。

男女別にみると、ほとんどの項目で男性の方が女性より高く、特に「タバコを吸わないこと(禁煙・減煙・分煙)」(26.6%)では16ポイント以上高くなっています。

年齢別にみると、「定期的に健康診査を受けること」では『75歳以上』で高くなっており、「適正な体重を維持すること」については、年齢が下がるほど割合が高くなっています。

世帯類型別にみると、「体操や運動をすること」(51.3%)と「近所づきあいをすること」(20.6%)で「ひとり暮らし」の割合が他の世帯類型より高くなっています。



日常生活圏域別にみると、「食事、睡眠など、規則正しい生活を送ること」は久が原（58.2%）、新井宿（57.1%）、大森東（57.0%）、嶺町（57.0%）、六郷（55.9%）で、「体操や運動をすること」は新井宿（61.5%）、矢口（53.6%）、六郷（52.7%）、千束（52.4%）で、「歯と口を清潔に保ち、かむ力を維持すること」は久が原（48.4%）、雪谷（46.3%）、大森東（45.3%）で、「バランスのよい食生活を送ること」は千束（52.4%）、嶺町（47.7%）でそれぞれ平均より5ポイント以上高くなっています。

		食事、睡眠など、規則正しい生活を送ること	体操や運動をすること	歯と口を清潔に保ち、かむ力を維持すること	バランスのよい食生活を送ること	定期的に健康診査を受けること	適正な体重を維持すること	認知症にならないよう脳トレをすること	タバコを吸わないこと（禁煙・減煙・分煙）	趣味や好きなことを探し、続けること	お酒の飲み方に気を付けること（休肝日を設けるなど）	近所づきあいをすること	地域活動やボランティアに参加すること	特にない	無回答
全体		50.9	47.4	39.6	39.4	37.7	26.4	21.3	16.7	16.3	10.9	10.4	2.2	9.3	4.9
性別	男性	53.7	47.8	40.9	42.7	41.1	30.7	22.0	26.6	17.9	16.5	8.3	2.4	7.2	4.7
	女性	49.1	47.1	38.7	37.4	35.6	23.7	20.9	10.6	15.3	7.4	11.6	2.0	10.7	5.0
年齢別	65～74歳	47.6	50.4	38.6	35.4	30.8	33.8	19.8	18.6	15.5	12.7	7.1	2.5	10.9	4.4
	75～84歳	52.7	47.5	40.5	39.3	38.2	28.2	22.2	18.3	16.2	13.3	11.5	2.7	9.4	5.4
	85歳以上	50.1	46.3	38.9	40.7	39.3	22.2	20.9	14.5	16.7	7.8	10.2	1.5	8.7	4.5
世帯類型別	ひとり暮らし	52.5	51.3	41.2	36.6	38.5	30.1	23.0	18.2	20.9	10.9	20.6	4.3	9.4	4.7
	夫婦ふたり暮らし	53.4	46.2	41.3	43.2	35.8	29.4	21.9	20.0	18.1	14.3	10.2	2.1	8.8	5.2
	その他	48.1	46.7	37.9	38.2	38.9	22.6	20.4	14.0	13.2	8.8	6.1	1.4	9.7	4.8
日常生活圏域別	大森東	57.0	47.7	45.3	34.9	32.6	24.4	16.3	15.1	12.8	14.0	12.8	1.2	5.8	5.8
	大森西	44.2	46.3	43.2	44.2	40.0	17.9	18.9	13.7	14.7	6.3	12.6	1.1	10.5	3.2
	入新井	47.1	43.7	34.5	32.2	36.8	24.1	18.4	12.6	20.7	6.9	8.0	1.1	11.5	9.2
	馬込	54.7	46.5	31.4	39.5	30.2	26.7	17.4	17.4	12.8	11.6	10.5	3.5	11.6	11.6
	池上	50.0	50.0	38.0	29.3	39.1	25.0	14.1	12.0	17.4	9.8	8.7	2.2	6.5	5.4
	新井宿	57.1	61.5	44.0	44.0	38.5	34.1	29.7	12.1	17.6	6.6	13.2	3.3	4.4	6.6
	嶺町	57.0	41.9	31.4	47.7	34.9	26.7	18.6	19.8	20.9	10.5	3.5	-	11.6	3.5
	田園調布	47.7	45.3	41.9	37.2	30.2	38.4	24.4	17.4	19.8	8.1	7.0	3.5	3.5	7.0
	鶉の木	51.5	39.6	37.6	42.6	43.6	18.8	18.8	12.9	19.8	8.9	7.9	2.0	6.9	5.9
	久が原	58.2	50.5	48.4	41.8	42.9	33.0	27.5	20.9	25.3	16.5	12.1	2.2	7.7	5.5
	雪谷	50.0	48.8	46.3	42.7	37.8	31.7	22.0	20.7	14.6	12.2	9.8	1.2	6.1	3.7
	千束	52.4	52.4	44.0	52.4	42.9	34.5	27.4	17.9	28.6	15.5	13.1	4.8	6.0	3.6
	糺谷	50.6	44.4	37.0	40.7	37.0	23.5	18.5	14.8	8.6	7.4	6.2	1.2	11.1	3.7
	羽田	53.1	45.9	32.7	34.7	38.8	21.4	17.3	16.3	15.3	14.3	13.3	4.1	16.3	4.1
	六郷	55.9	52.7	40.9	37.6	41.9	29.0	24.7	25.8	17.2	17.2	16.1	2.2	9.7	3.2
	矢口	49.5	53.6	40.2	40.2	36.1	23.7	26.8	15.5	15.5	12.4	7.2	3.1	5.2	6.2
	蒲田西	42.9	42.9	34.3	36.2	34.3	28.6	23.8	13.3	10.5	5.7	8.6	-	11.4	3.8
蒲田東	51.0	40.4	44.2	36.5	35.6	26.9	22.1	18.3	15.4	12.5	9.6	4.8	13.5	1.9	

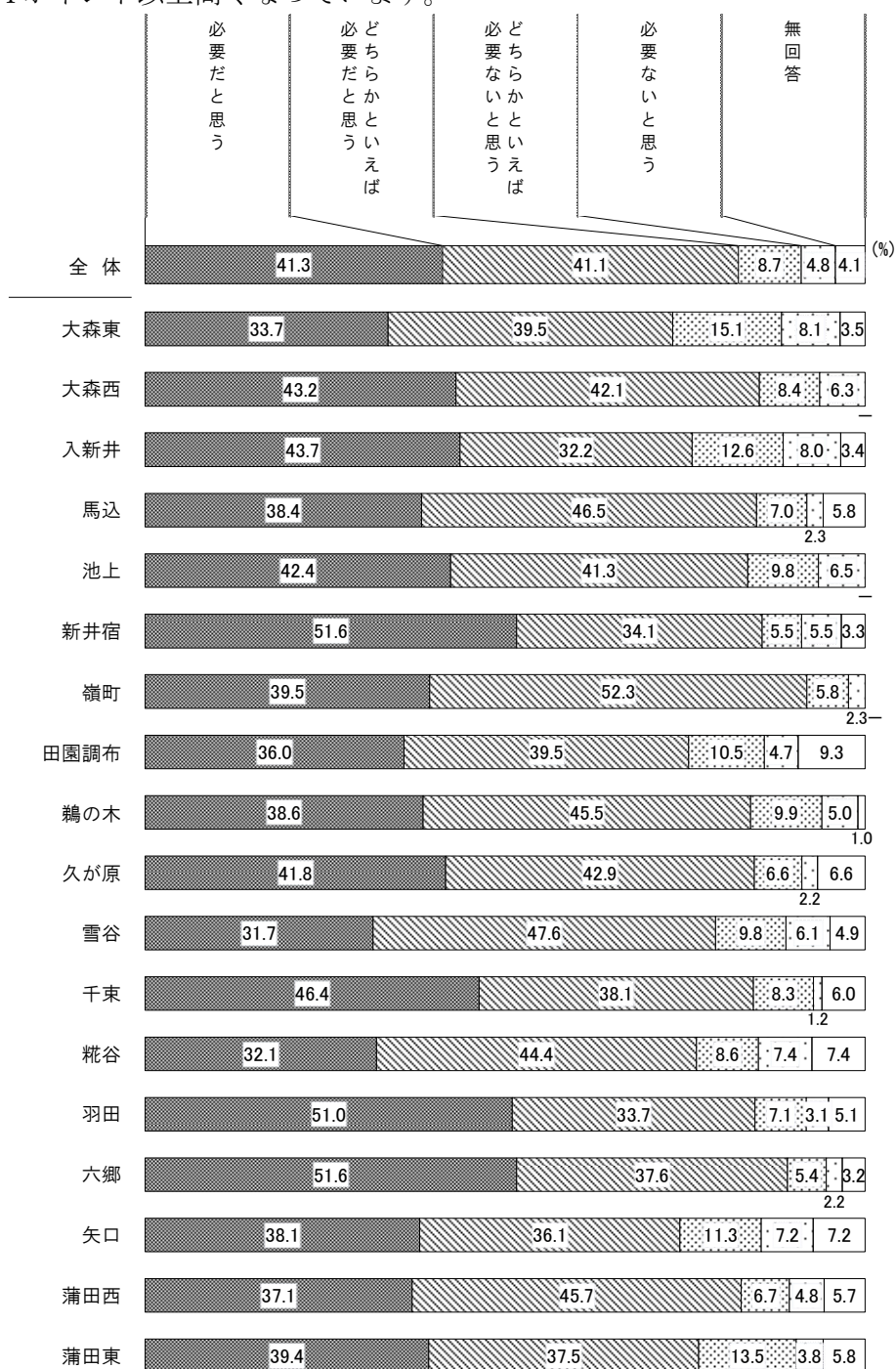
平均より5ポイント以上高い

3. 地域のつながりの必要性

あなたの日々の暮らしの中で、地域のつながり（住民同士の助け合い・支え合いなど）の必要性についてどのように感じていますか。（1つに〇）

住民同士の助け合いや支え合いなどの地域のつながりの必要性については、「必要だと思う」が41.3%で最も高く、「どちらかといえば必要だと思う」（41.1%）を合わせた『必要』は82.4%となっています。一方、「どちらかといえば必要ないと思う」（8.7%）と「必要ないと思う」（4.8%）を合わせた『必要ない』は13.5%となっています。

日常生活圏域別にみると、『必要』は嶺町（91.8%）、六郷（89.2%）で平均より4ポイント以上高くなっています。一方、『必要ない』は大森東（23.2%）、入新井（20.6%）、矢口（18.5%）で平均より4ポイント以上高くなっています。

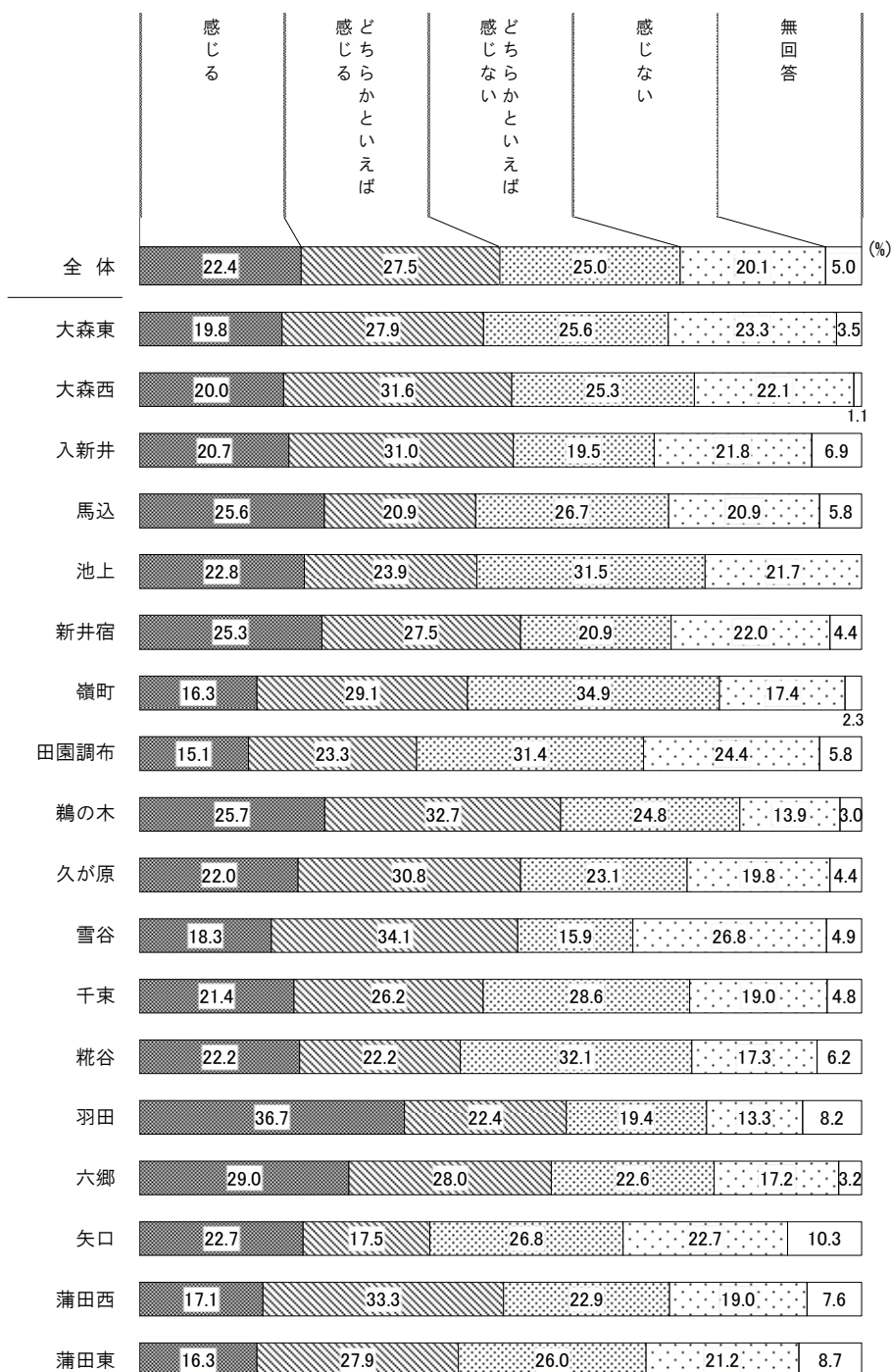


4. 地域のつながりの実感

あなたの日々の暮らしの中で、地域のつながり（住民同士の助け合い・支え合いなど）を実際に感じることはありますか。（1つに○）

住民同士の助け合いや支え合いなどの地域のつながりの実感については、「どちらかといえば感じる」が27.5%で最も高く、「感じる」（22.4%）を合わせた『感じる』は49.9%となっています。一方、「どちらかといえば感じない」（25.0%）と「感じない」（20.1%）を合わせた『感じない』は45.1%となっています。

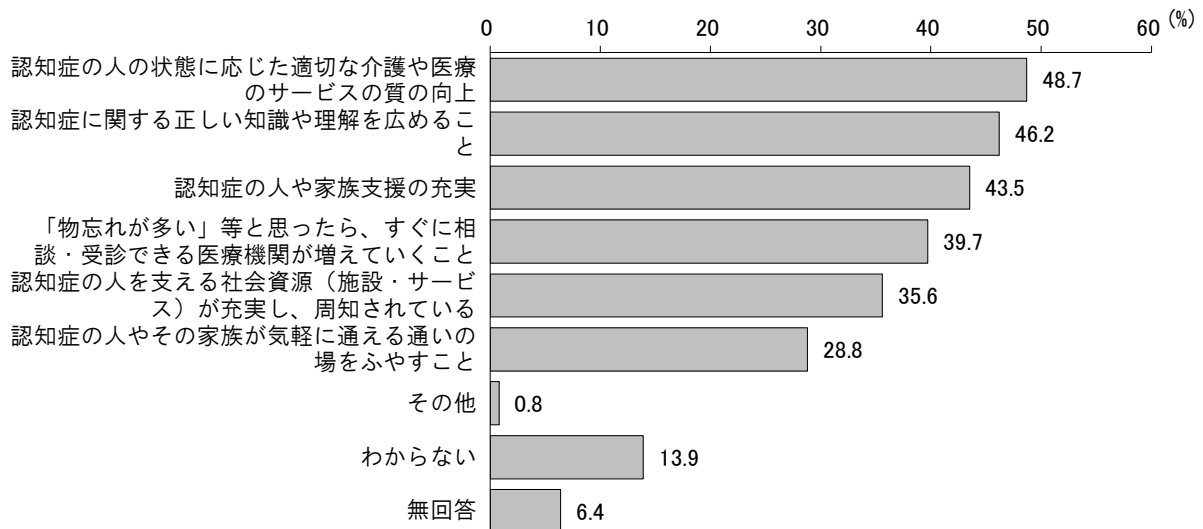
日常生活圏域別にみると、『感じる』は、羽田（59.1%）、鶉の木（58.4%）、六郷（57.0%）で平均より4ポイント以上高くなっています。一方、『感じない』は田園調布（55.8%）、池上（53.2%）、嶺町（52.3%）、矢口（49.5%）、糞谷（49.4%）で平均より4ポイント以上高くなっています。



5. 認知症の人との共生に必要な取り組みや支援

認知症の人と共に生きる、優しい地域づくりを実現するためには、どのような取り組みや支援が必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

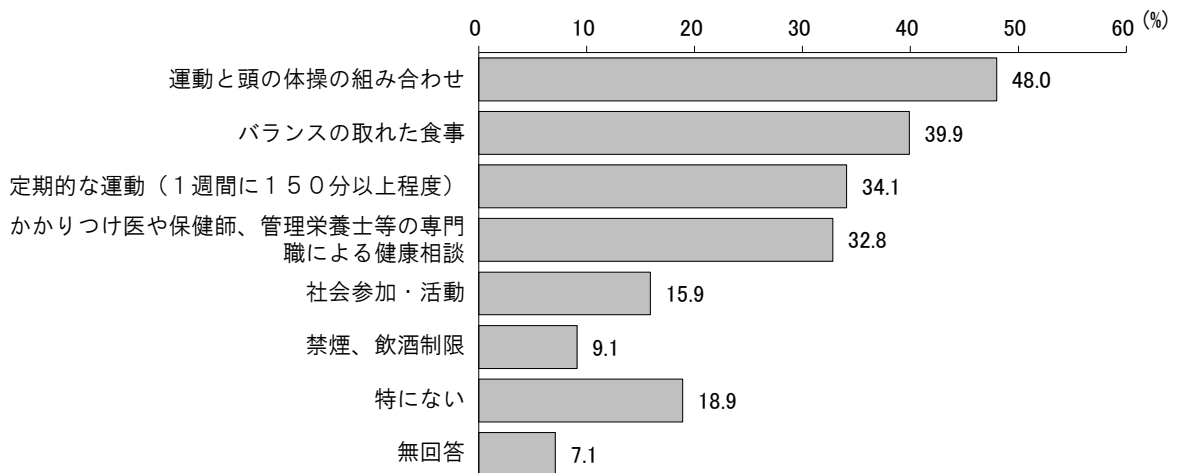
認知症の人と共に生きるために必要な取り組みや支援は、「認知症の人の状態に応じた適切な介護や医療のサービスの質の向上」が48.7%で最も高くなっています。次いで、「認知症に関する正しい知識や理解を広めること」(46.2%)、「認知症の人や家族支援の充実」(43.5%)、などとなっています。一方、「わからない」が13.9%となっています。



6. 認知症予防に向けた取り組み

あなたは、認知症予防（認知症になるのを遅らせる、認知症になっても進行を穏やかにする）に効果があると考えられるものの中で、ご自身で取り組んでいきたい（現在取り組んでいるものを含む）ことはありますか。(あてはまるものすべてに○)

認知症予防に効果があると考えられるもので取り組みたいものは、「運動と頭の体操の組み合わせ」が48.0%で最も高くなっています。次いで、「バランスの取れた食事」(39.9%)、「定期的な運動（1週間に150分以上程度）」(34.1%)、「かかりつけ医や保健師、管理栄養士等の専門職による健康相談」(32.8%) などとなっています。一方、「特にない」が18.9%となっています。



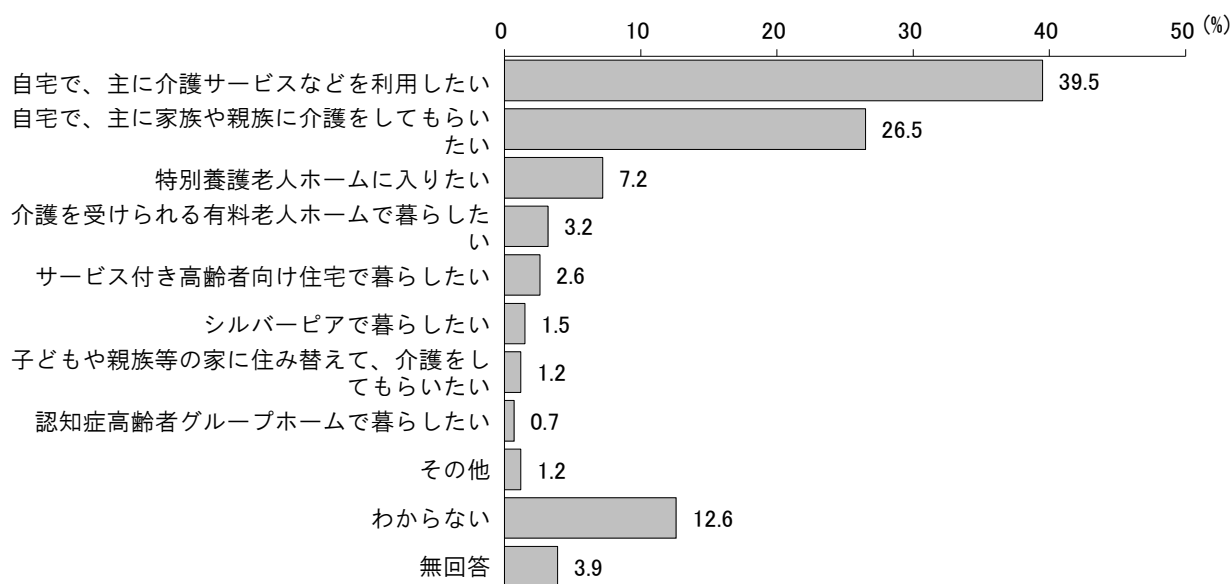
7. 今後希望する暮らし方

あなたは、今後、どのような暮らし方を希望しますか。(もっとも近い考え1つに○)

今後希望する暮らし方は、「自宅で、主に介護サービスなどを利用したい」が39.5%で最も高く、次いで「自宅で、主に家族や親族に介護をしてもらいたい」(26.5%) になっており、この2つを合わせた『自宅』は66.0%となっています。自宅以外では「特別養護老人ホームに入りたい」が7.2%で最も高くなっています。一方、「わからない」が12.6%となっています。

世帯類型別にみると、『自宅』は、「その他」が69.8%で最も高くなっています。「自宅で、主に介護サービスなどを利用したい」は「ひとり暮らし」(48.8%) で、「自宅で、主に家族や親族に介護をしてもらいたい」は「その他」(34.7%) で高くなっています。

要介護度別にみると、『自宅』は、『要介護4～5』で7割台と高くなっています。「自宅で、主に家族や親族に介護をしてもらいたい」は要介護度が上がるほど割合が高くなっています。



日常生活圏域別にみると、『自宅』は、馬込（73.3%）、嶺町（73.2%）、蒲田東（72.2%）、田園調布（72.1%）で平均より5ポイント以上高くなっています。「自宅で、主に介護サービスなどを利用したい」は馬込（53.5%）、入新井（48.3%）、雪谷（47.6%）で、「自宅で、主に家族や親族に介護をしてもらいたい」は糞谷（37.0%）、蒲田東（33.7%）、羽田（31.6%）で、それぞれ平均より5ポイント以上高くなっています。

		自宅 で、主 に介 護サ ービ スな ど を 利 用 し た い	自宅 で、 主に 家族 や親 族に 介 護 を し て ら い た い	特 別 養 護 老 人 ホ ー ム に 入 り た い	介 護 を 受 け ら れ る 有 料 老 人 ホ ー ム で 暮 ら し た い	サ ー ビ ス 付 き 高 齢 者 向 け 住 宅 で 暮 ら し た い	シ ル バ ー ビ ア で 暮 ら し た い	子 ど も や 親 族 等 の 家 に 住 み 替 え て、 介 護 を し て ら い た い	認 知 症 高 齢 者 グ ル ー プ ホ ー ム で 暮 ら し た い	そ の 他	わ か ら な い	無 回 答	自 宅	自 宅 以 外
全 体		39.5	26.5	7.2	3.2	2.6	1.5	1.2	0.7	1.2	12.6	3.9	66.0	17.6
世帯 類型 別	ひとり暮らし	48.8	12.2	9.1	4.1	3.9	1.8	1.8	1.5	1.1	11.6	4.2	61.0	23.3
	夫婦ふたり暮らし	40.8	23.0	7.9	4.0	2.9	1.7	1.3	0.5	1.2	11.5	5.3	63.8	19.5
	その他	35.1	34.7	5.8	2.5	1.9	1.2	0.8	0.6	1.3	13.2	2.9	69.8	14.1
要 介 護 度 別	要介護1	41.9	21.5	5.2	3.6	3.8	1.0	1.7	0.5	1.0	16.5	3.3	63.4	16.8
	要介護2	37.4	24.2	8.0	4.1	2.6	1.2	0.8	1.3	1.3	14.6	4.4	61.6	19.3
	要介護3	40.2	28.4	9.1	3.3	1.3	1.8	1.2	0.8	0.7	9.3	3.8	68.6	18.2
	要介護4	37.3	35.0	7.7	2.4	2.1	2.0	1.4	-	1.8	7.9	2.2	72.3	17.4
	要介護5	40.5	35.9	6.1	-	1.7	2.3	0.5	0.4	2.2	5.0	5.5	76.4	13.2
日 常 生 活 圏 域 別	大森東	36.0	30.2	7.0	4.7	-	5.8	-	1.2	-	11.6	3.5	66.2	18.7
	大森西	40.0	26.3	8.4	1.1	2.1	2.1	2.1	-	2.1	14.7	1.1	66.3	17.9
	入新井	48.3	19.5	3.4	3.4	2.3	2.3	-	2.3	-	13.8	4.6	67.8	13.7
	馬込	53.5	19.8	8.1	1.2	2.3	3.5	1.2	1.2	1.2	5.8	2.3	73.3	18.7
	池上	43.5	23.9	4.3	3.3	3.3	-	-	-	2.2	18.5	1.1	67.4	13.1
	新井宿	39.6	27.5	5.5	7.7	4.4	1.1	-	-	-	7.7	6.6	67.1	18.7
	嶺町	43.0	30.2	11.6	2.3	1.2	-	-	-	-	8.1	3.5	73.2	15.1
	田園調布	44.2	27.9	8.1	1.2	1.2	-	-	1.2	2.3	12.8	1.2	72.1	14.0
	鵜の木	35.6	26.7	7.9	2.0	5.0	1.0	-	1.0	1.0	15.8	4.0	62.3	17.9
	久が原	41.8	20.9	6.6	3.3	2.2	2.2	1.1	1.1	-	18.7	2.2	62.7	16.5
	雪谷	47.6	20.7	8.5	3.7	3.7	-	-	1.2	-	11.0	3.7	68.3	17.1
	千束	44.0	25.0	6.0	4.8	2.4	-	1.2	1.2	-	11.9	3.6	69.0	15.6
	糞谷	30.9	37.0	9.9	3.7	1.2	-	2.5	1.2	-	7.4	6.2	67.9	18.5
	羽田	27.6	31.6	11.2	1.0	2.0	4.1	3.1	-	3.1	11.2	5.1	59.2	24.5
	六郷	34.4	24.7	6.5	3.2	2.2	-	2.2	1.1	2.2	19.4	4.3	59.1	17.4
矢口	40.2	28.9	6.2	5.2	2.1	-	-	1.0	1.0	11.3	4.1	69.1	15.5	
蒲田西	32.4	25.7	6.7	6.7	3.8	1.0	1.0	-	2.9	12.4	7.6	58.1	22.1	
蒲田東	38.5	33.7	2.9	1.9	3.8	4.8	2.9	1.0	-	5.8	4.8	72.2	17.3	

平均より5ポイント以上高い

8. 在宅で安心して暮らすための条件

あなたは、どのようなサービスや条件が整えば、在宅で安心して暮らし続けることができると思われますか。(あてはまるものすべてに○)

在宅で安心して暮らすための条件は、「24時間必要に応じて、ヘルパーや看護師が来てくれる」が48.2%で最も高くなっています。次いで、「家族が理解・協力してくれる」(47.2%)、「デイサービスやショートステイを利用したいときに利用できる」(45.9%)、「介護や医療費に対する経済的負担が軽減される」(43.5%)などとなっています。

世帯類型別にみると、「家族が理解・協力してくれる」、「24時間必要に応じて、医師が往診してくれる」は「夫婦ふたり暮らし」、「その他」で高くなっています。逆に、「困ったときにいつでも相談できる場が身近にある」、「配食や買い物、ゴミ出し等の生活面を支援してくれる」、「声かけや見守りをしてくれるなど地域の支えがある」は「ひとり暮らし」で高くなっています。

要介護度別にみると、多くの項目で「要介護5」が最も高くなっていますが、「配食や買い物、ゴミ出し等の生活面を支援してくれる」は、『要介護1～2』で3割台と高くなっています。

(%)

		や2 4 時 間 が 必 要 に 応 じ て、 ヘル パー	家 族 が 理 解 ・ 協 力 し て く れ る	デ イ サ ー ビ ス や シ ョ ー ト ス テ イ を 利 用 し た い と き に 利 用 で き る	介 護 や 医 療 費 に 対 す る 経 済 的 負 担 が 軽 減 さ れ る	診 2 4 時 間 必 要 に 応 じ て、 医 師 が 往 診 し て く れ る	場 困 つ た と き に い つ で も 相 談 で き る 場 が 身 近 に あ る	サ ー ビ ス に 対 し て 充 実 し て い る 認 知 症 に 対 し て 充 実 し て い る 医 療 ・ 介 護	面 配 食 や 買 い 物 、 ゴ ミ 出 し 等 の 生 活 面 を 支 援 し て く れ る	備 段 が 差 が 整 つ て い る 住 ま い の 構 造 や 設 備	地 声 か け や 見 守 り を し て く れ る な ど の 支 え が あ る	そ の 他	わ か ら な い	無 回 答
全 体		48.2	47.2	45.9	43.5	40.6	34.2	28.7	28.3	22.7	19.6	1.2	5.4	7.9
世帯 類 型 別	ひとり暮らし	50.2	39.6	44.4	42.6	34.2	39.3	28.0	52.1	22.3	30.0	2.1	3.4	6.9
	夫婦ふたり暮らし	49.8	47.1	41.2	39.5	42.1	33.9	25.6	26.2	20.7	17.4	0.5	6.2	9.2
	その他	46.7	50.7	49.6	46.9	42.7	32.5	31.1	19.8	24.2	16.9	1.3	5.8	7.3
要 介 護 度 別	要介護1	42.2	43.9	41.1	37.0	33.6	35.4	29.0	32.5	19.5	21.3	1.7	7.4	7.9
	要介護2	46.3	45.3	43.7	42.5	37.0	35.1	28.4	30.9	22.2	19.4	0.6	5.1	8.5
	要介護3	49.7	50.5	53.0	42.6	44.9	31.3	28.4	25.7	24.3	19.9	1.2	3.9	7.0
	要介護4	50.4	47.6	46.9	51.1	46.5	33.1	27.0	19.9	23.0	17.0	0.5	4.6	8.6
	要介護5	66.9	56.9	53.5	58.6	59.3	33.9	31.5	21.6	30.6	18.0	2.2	4.4	6.6

9. 在宅介護実態調査の分析

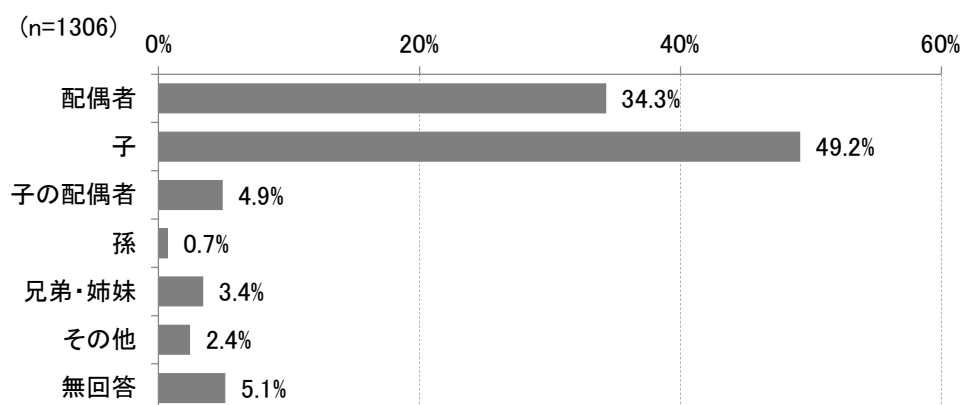
(1) 分析の目的

要介護認定者調査は、国が提示した『在宅介護実態調査』の調査項目を組み込んで実施しました。

『在宅介護実態調査』は、これまでの「地域包括ケアシステムの構築」という観点に加え、「介護離職をなくしていくためにはどのようなサービスが必要か」といった観点を盛り込むため、「高齢者等の適切な在宅生活の継続」と「家族等介護者の就労継続」の実現に向けた介護サービスのあり方を検討することを目的とします。本調査は主に在宅で生活している要介護認定者を対象とし、施設等へ入居・入所している方は対象としていません。

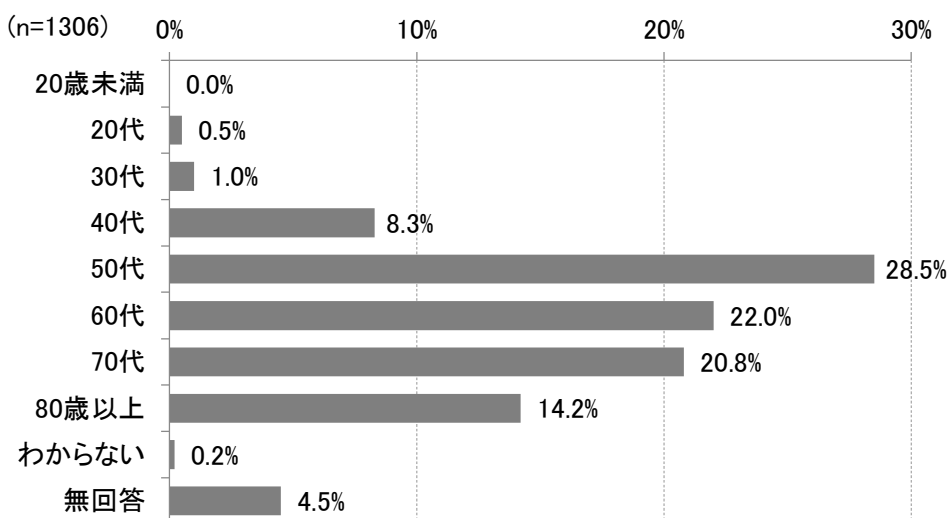
(2) 主な介護者との続柄

主な介護者は、「子」が49.2%で最も高く、次いで「配偶者」(34.3%)、「子の配偶者」(4.9%)、「兄弟・姉妹」(3.4%)、「その他」(2.4%)、「孫」(0.7%)の順となっています。



(3) 主な介護者の年齢

主な介護者の年齢は、「50代」が28.5%で最も高く、次いで「60代」(22.0%)、「70代」(20.8%)、「80歳以上」(14.2%)、「40代」(8.3%)と続いており、『70代以上』は35.0%となっています。

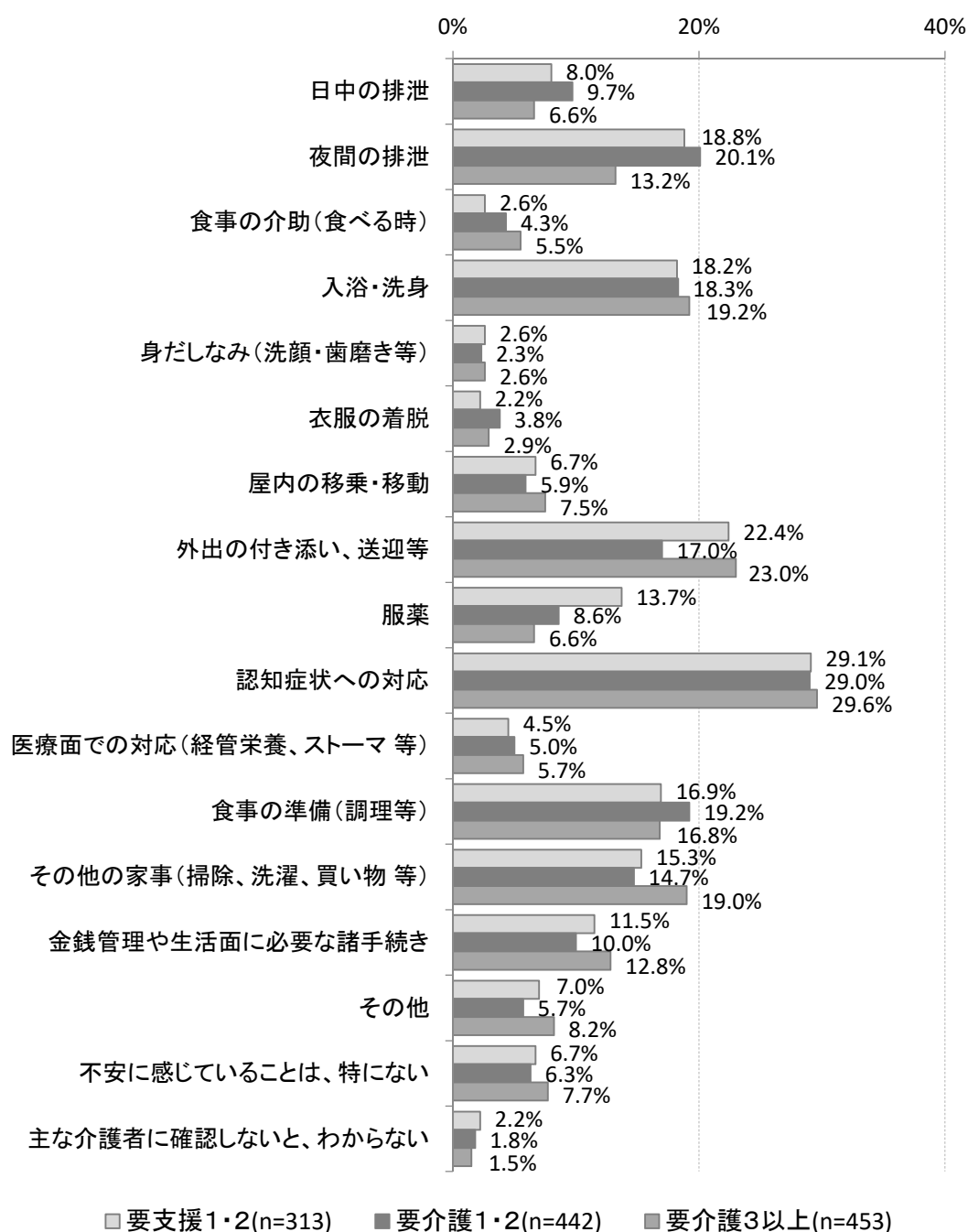


(4) 主な介護者が不安に感じている介護

要介護度別にみると、「要支援1・2」では、「認知症状への対応」(29.1%)、「外出の付き添い、送迎等」(22.4%)、「夜間の排泄」(18.8%)、「入浴・洗身」(18.2%)、「食事の準備(調理等)」(16.9%)、「その他の家事(掃除、洗濯、買い物等)」(15.3%)の順となっています。

「要介護1・2」では、「認知症状への対応」(29.0%)、「夜間の排泄」(20.1%)、「食事の準備(調理等)」(19.2%)、「入浴・洗身」(18.3%)、「外出の付き添い、送迎等」(17.0%)、「その他の家事(掃除、洗濯、買い物等)」(14.7%)の順となっています。

「要介護3以上」では、「認知症状への対応」(29.6%)、「外出の付き添い、送迎等」(23.0%)、「入浴・洗身」(19.2%)、「その他の家事(掃除、洗濯、買い物等)」(19.0%)、「食事の準備(調理等)」(16.8%)、「夜間の排泄」(13.2%)の順となっています。



第4章 第2号被保険者調査結果

1. 充実した高齢期の生活を送るために、取り組んだ方がよいこと

あなたは、いきいきと充実した高齢期の生活を送るために、これから取り組んだ方がよいことは何だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

充実した生活を送るために取り組んだ方がよいこととしては、「足腰の筋力を鍛えること」が76.5%で最も高く、次いで「バランスのよい食生活をする事」(65.3%)、「定期的に健康診査を受けること」(58.1%)、「趣味を持つこと」(57.1%)、「歯と口の清潔を保ち、かむ力を維持すること」(56.9%)となっています。

男女別にみると、「足腰の筋力を鍛えること」「バランスのよい食生活をする事」「定期的に健康診査を受けること」「趣味を持つこと」「歯と口の清潔を保ち、かむ力を維持すること」という上位5項目において、「定期的に健康診査を受けること」以外は女性の方が高くなっています。男女で違いが大きいのは、「お酒の飲み方に気を付けること(休肝日を設けるなど)」で男性(40.9%)が女性(20.6%)より約20ポイント大きく、「認知症にならないよう脳トレすること」で女性(50.5%)が男性(35.7%)より約15ポイント高くなっています。

世帯類型別にみると、「定期的に健康診査を受けること」は「夫婦ふたり暮らし」が他の世帯類型より10ポイント以上高く、「仕事をする事」では「ひとり暮らし」が他の世帯類型より10ポイント以上高い割合となっています。

		n (回答者数)	足腰の筋力を鍛えること	バランスのよい食生活をする事	定期的に健康診査を受けること	趣味を持つこと	歯と口の清潔を保ち、かむ力を維持すること	適正な体重を維持すること	バランス能力を高めるような運動を行うこと	認知症にならないよう脳トレすること	仕事をする事	お酒の飲み方に気を付けること(休肝日を設けるなど)	煙・分煙)	タバコを吸わないこと(禁煙・減	地域活動やボランティア活動に参加すること	近所づきあいをすること	その他	特にない	無回答
全体		599	76.5	65.3	58.1	57.1	56.9	55.9	44.9	43.4	42.9	30.2	23.7	20.7	19.2	2.3	1.2	1.7	
性別	男性	286	70.6	61.2	59.4	54.2	49.7	58.7	41.6	35.7	47.2	40.9	29.0	21.7	18.9	0.7	1.7	1.7	
	女性	311	81.7	69.5	56.9	59.5	63.7	53.7	47.6	50.5	39.2	20.6	19.0	19.6	19.6	3.9	0.6	1.6	
世帯類型別	ひとり暮らし	91	78.0	71.4	56.0	53.8	60.4	64.8	51.6	44.0	58.2	36.3	26.4	16.5	16.5	1.1	2.2	-	
	夫婦ふたり暮らし	146	78.1	70.5	67.1	58.2	61.6	61.0	44.5	46.6	36.3	28.8	21.2	23.3	26.0	2.1	1.4	2.1	
	その他	360	75.3	61.7	55.0	57.2	54.2	51.7	43.1	41.9	41.7	29.2	23.9	20.6	16.9	2.5	0.8	1.9	

2. 充実した高齢期の生活を送るために、実践していること

あなたは、いきいきと充実した高齢期の生活を送るために、今、実践していることはありますか。(あてはまるものすべてに○)

充実した生活を送るために今実践していることは、「定期的に健康診査を受けること」と「仕事をする事」がともに55.4%で最も高く、次いで、「バランスのよい食生活をする事」(47.2%)、「足腰の筋力を鍛えること」(46.9%)、「歯と口の清潔を保ち、かむ力を維持すること」(42.4%)となっています。

男女別にみると、「バランスのよい食生活をする事」、「歯と口の清潔を保ち、かむ力を維持すること」、「認知症にならないよう脳トレすること」では女性の方が男性より10ポイント以上高くなっています。

世帯類型別にみると、「定期的に健康診査を受けること」「仕事をする事」「バランスのよい食生活をする事」「足腰の筋力を鍛えること」「歯と口の清潔を保ち、かむ力を維持すること」という上位5項目において、「仕事をする事」は「ひとり暮らし」と「その他」が高く、それ以外の項目は「夫婦ふたり暮らし」が最も高くなっています。

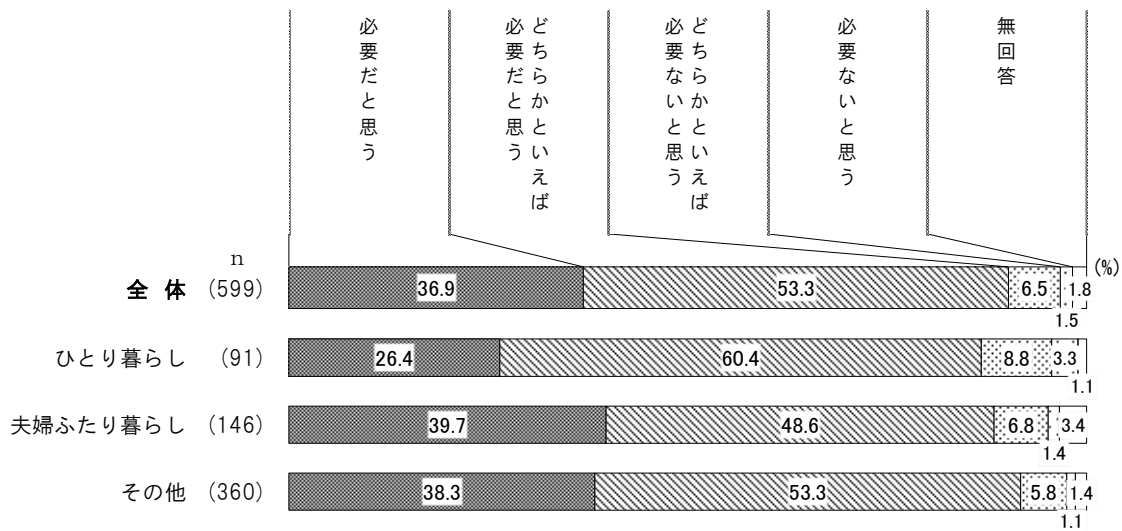
		n (回答者数)	定期的に健康診査を受けること	仕事をする事	バランスのよい食生活をする事	足腰の筋力を鍛えること	歯と口の清潔を保ち、かむ力を維持すること	趣味を持つこと	適正な体重を維持すること	タバコを吸わないこと(禁煙・減煙)	肝臓を設けるなど(休肝日)	お酒の飲み方に気を付けること(休肝日)	バランス能力を高めるような運動を行うこと	認知症にならないよう脳トレすること	近所づきあいをする事	地域活動やボランティア活動に参加すること	その他	特になし	(%) 無回答
全体		599	55.4	55.4	47.2	46.9	42.4	40.1	38.6	31.6	27.4	22.9	15.9	11.0	10.0	1.2	3.8	3.2	
性別	男性	286	54.9	57.7	39.9	46.9	33.6	37.4	39.2	31.8	29.0	21.0	10.1	9.1	9.1	-	5.9	3.1	
	女性	311	56.3	53.4	54.3	47.3	50.5	42.4	38.3	31.2	25.7	24.4	20.9	12.9	10.9	2.3	1.9	3.2	
世帯類型別	ひとり暮らし	91	51.6	57.1	44.0	47.3	42.9	39.6	39.6	29.7	29.7	25.3	19.8	6.6	4.4	1.1	4.4	3.3	
	夫婦ふたり暮らし	146	61.6	48.6	51.4	50.7	43.2	40.4	40.4	27.4	26.0	23.3	17.1	12.3	15.1	0.7	2.1	3.4	
	その他	360	53.9	57.5	46.4	45.3	41.9	40.0	37.5	33.3	26.9	21.7	14.2	11.7	9.2	1.4	4.4	3.1	

3. 地域のつながりの必要性

あなたの日々の暮らしの中で、地域のつながり（住民同士の助け合い・支え合いなど）の必要性についてどのように感じていますか。（1つに○）

地域のつながりの必要性については、「どちらかといえば必要だと思う」が53.3%で最も高く、「必要だと思う」(36.9%)を合わせた『必要だと思う』が90.2%となり、「どちらかといえば必要ないと思う」(6.5%)と「必要ないと思う」(1.5%)を合わせた『必要ないと思う』は8.0%となっています。

世帯類型別にみると、『必要だと思う』は、「ひとり暮らし」が85.8%で最も低くなっています。

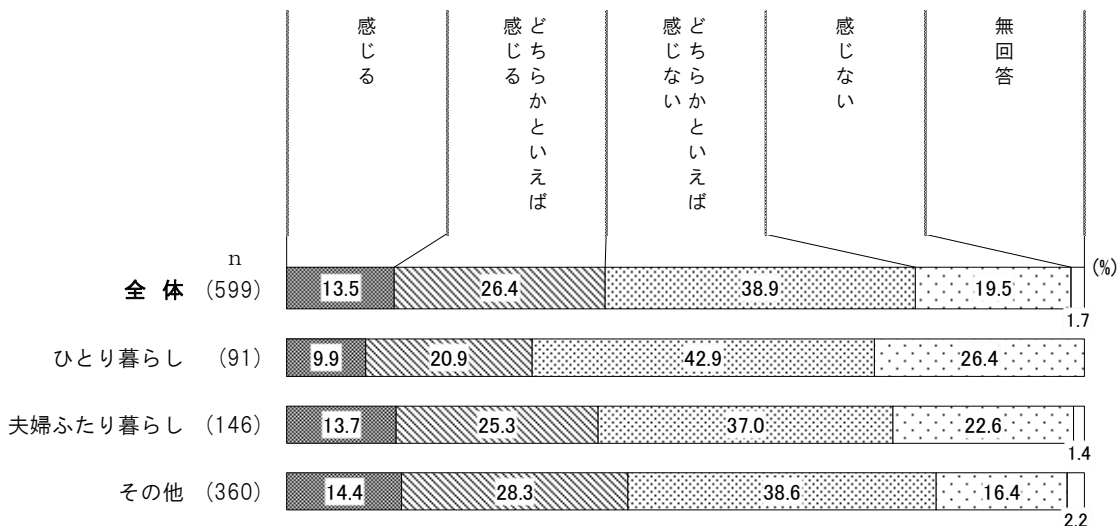


4. 地域のつながりの実感

あなたの日々の暮らしの中で、地域のつながり（住民同士の助け合い・支え合いなど）を実際に感じることはありますか。（1つに○）

地域のつながりの実感としては、「どちらかといえば感じない」が38.9%で最も高く、「感じない」(19.5%)を合わせた『感じない』が58.4%となり、「感じる」(13.5%)と「どちらかといえば感じる」(26.4%)を合わせた『感じる』は39.9%となっています。

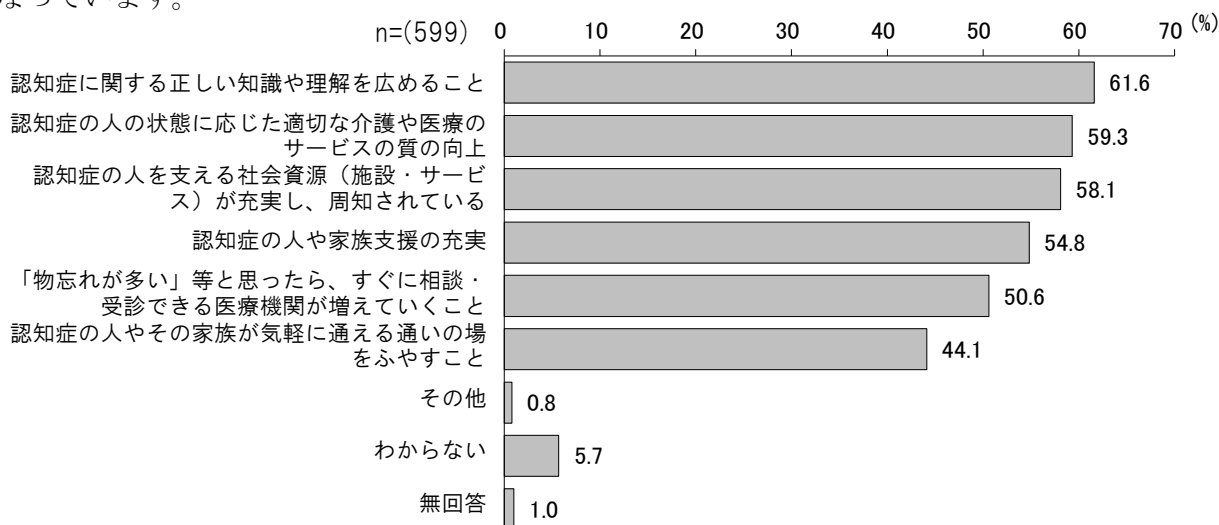
世帯類型別にみると、『感じない』は、「ひとり暮らし」で69.3%と最も高くなっています。



5. 認知症の人との共生に必要な取り組みや支援

認知症の人と共に生きる、優しい地域づくりを実現するためには、どのような取り組みや支援が必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

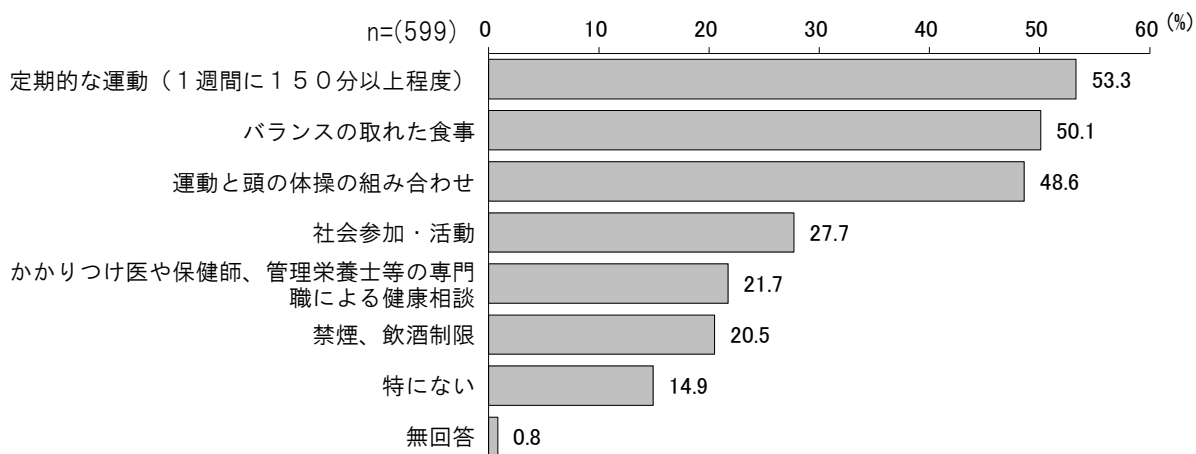
認知症の人と共に生きる、やさしい地域づくりを実現するために必要な取り組みや支援として、「認知症に関する正しい知識や理解を広めること」が61.6%で最も高く、次いで「認知症の人の状態に応じた適切な介護や医療のサービスの質の向上」(59.3%)、「認知症の人を支える社会資源(施設・サービス)が充実し、周知されている」(58.1%)、「認知症の人や家族支援の充実」(54.8%)、「物忘れが多い」等と思ったら、すぐに相談・受診できる医療機関が増えていくこと」(50.6%)、「認知症の人やその家族が気軽に通える通いの場をふやすこと」(44.1%)などとなっています。



6. 認知症予防に向けた取り組み

あなたは、認知症予防(認知症になるのを遅らせる、認知症になっても進行を穏やかにする)に効果があると考えられるものの中で、ご自身で取り組んでいきたい(現在取り組んでいるものを含む)ことはありますか。(あてはまるものすべてに○)

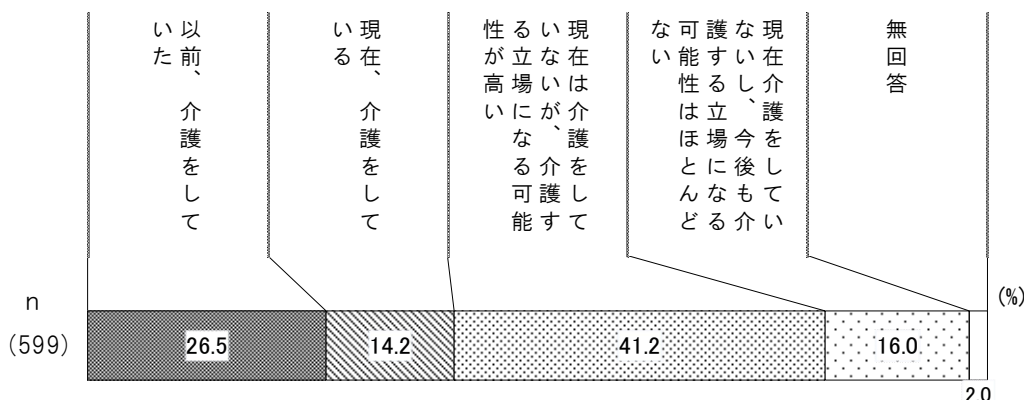
認知症予防に効果があると考えられるもので、取り組みたいこととして、「定期的な運動(1週間に150分以上程度)」が53.3%で最も高く、次いで「バランスの取れた食事」(50.1%)、「運動と頭の体操の組み合わせ」(48.6%)、「社会参加・活動」(27.7%)などとなっています。



7. 家族等の介護をした経験

あなたは、家族等の介護をした経験はありますか。(1つに○)

家族等の介護の経験は、「現在は介護をしていないが、介護する立場になる可能性が高い」が41.2%で最も高く、「現在介護をしていないし、今後も介護する立場になる可能性はほとんどない」(16.0%)を合わせた『介護経験はない』は57.2%となっています。一方、「以前、介護をしていた」(26.5%)と「現在、介護をしている」(14.2%)を合わせた『介護経験がある』は40.7%となっています。



【在宅で暮らし続けるために必要だと思う支援やサービス／介護経験別】

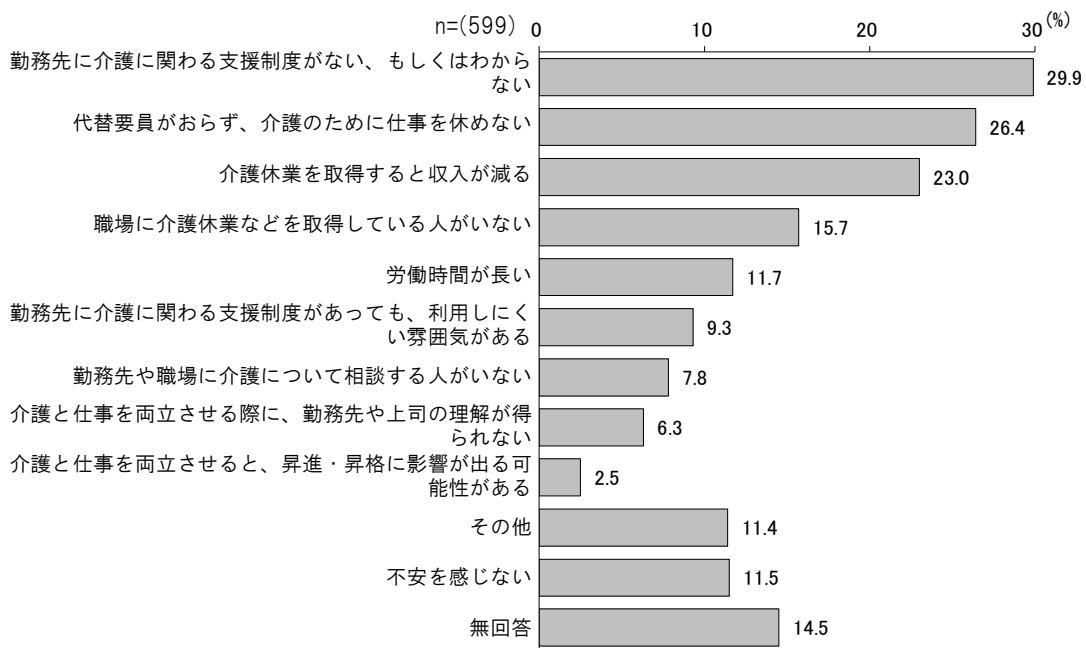
在宅で暮らし続けるために必要だと思う支援やサービスを介護経験別にみると、「デイサービスやショートステイを利用したいときに利用できる」は「現在、介護をしている」(70.6%)で特に高く、「家族が理解・協力してくれる」は「以前、介護をしていた」(52.2%)で特に高くなっています。

介護の経験別	n (回答者数)	(%)														
		24時間必要に応じて、ヘルパーや看護師が来てくれる	介護や医療費に対する経済的負担が軽減される	デイサービスやショートステイを利用したいときに利用できる	面を支援してくれる	配食や買い物、ゴミ出し等の生活	サービスが充実している	認知症に対応可能な医療・介護	24時間必要に応じて、医師が往診してくれる	24時間必要に応じて、医師が往診してくれる	困ったときにいつでも相談できる	家族が理解・協力してくれる	備が整っている	段差がないなど住まいの構造や設備が整っている	地域での見守りや声かけなどがある	その他
全体	599	71.6	62.1	56.3	56.1	50.8	48.4	46.6	45.4	30.2	27.7	1.5	5.8	1.7		
以前、介護をしていた	159	73.6	61.6	60.4	57.2	49.1	54.1	48.4	52.2	34.6	30.2	0.6	4.4	1.9		
現在、介護をしている	85	69.4	64.7	70.6	58.8	49.4	44.7	43.5	41.2	28.2	31.8	4.7	3.5	1.2		
現在は介護をしていないが、介護する立場になる可能性が高い	247	72.9	66.0	53.8	56.7	53.4	48.2	44.1	45.7	28.3	24.7	1.2	6.5	0.8		
現在介護をしていないし、今後もする立場になる可能性はほとんどない	96	65.6	52.1	41.7	47.9	50.0	41.7	53.1	37.5	27.1	27.1	1.0	9.4	3.1		

8. 介護をしながら仕事を続けるうえでの不安

あなたが、家族等の介護をすることになった場合、現在の勤務先で仕事を続けるうえで、不安に思うことは何ですか。(現在、家族等の介護をしている場合は、仕事を続けるうえで、不安に思っていることは何ですか) (〇は3つまで)

家族等の介護をすることになった場合に現在の仕事を続けるうえで不安なことは、「勤務先に介護に関わる支援制度がない、もしくはわからない」が29.9%で最も高く、次いで「代替要員がおらず、介護のために仕事を休めない」(26.4%)、「介護休業を取得すると収入が減る」(23.0%)などとなっています。一方、「不安を感じない」は11.5%となっています。



【仕事を続けるうえで不安なこと／介護経験別】

仕事を続けるうえで不安に感じることを、介護の経験別にみると、上位になっている項目のほとんどで「現在は介護をしていないが、介護する立場になる可能性が高い」が最も高い割合となっています。

		n (回答者数)	勤務先に関わる支援制度がない、もしくはわからない	代替要員がおらず、介護のために仕事を休めない	介護休業を取得すると収入が減る	職場に介護休業などを取得している人がいない	労働時間が長い	勤務先に関わる支援制度があっても、利用しにくい雰囲気がある	勤務先や職場に介護について相談する人がいない	介護と仕事を両立させると、勤務先や上司の理解が得られない	介護と仕事を両立させると、昇進・昇格に影響が出る可能性がある	その他	不安を感じない	無回答
全体		599	29.9	26.4	23.0	15.7	11.7	9.3	7.8	6.3	2.5	11.4	11.5	14.5
介護の経験別	以前、介護をしていた	159	26.4	23.9	20.1	15.1	10.7	10.7	3.8	6.3	3.8	13.2	12.6	16.4
	現在、介護をしている	85	18.8	28.2	22.4	15.3	8.2	9.4	4.7	5.9	5.9	12.9	14.1	18.8
	現在は介護をしていないが、介護する立場になる可能性が高い	247	37.2	31.2	23.9	17.8	14.2	8.9	8.5	6.5	1.2	10.5	8.1	10.9
	現在介護をしていないし、今後もする立場になる可能性はほとんどない	96	28.1	19.8	28.1	12.5	10.4	8.3	16.7	7.3	1.0	9.4	17.7	11.5

最も高い

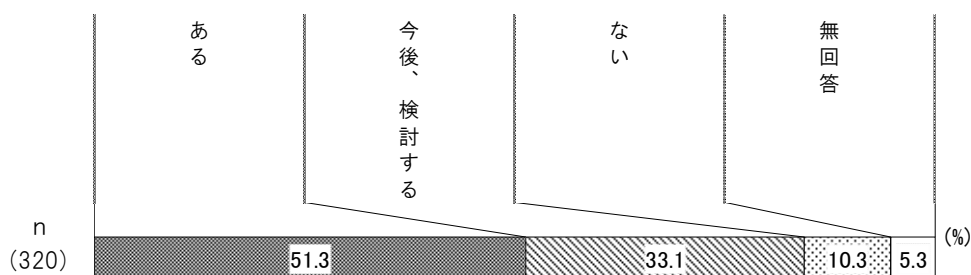
第5章 介護サービス事業者調査結果

1. PDCA サイクルの活用によるサービスの質の向上に向けた取組みの有無

貴事業所では、PDCA サイクル（※）の活用により、サービスの質の向上に向けた、働きやすい職場づくりや、業務の効率性を見直す体制や仕組みはありますか。（1つに○）

※Plan（計画）→Do（実行）→Check（評価）→Action（修正）を継続的に行うこと。

働きやすい職場づくりや、業務の効率性を見直す体制や仕組みについては、「ある」が51.3%、「今後、検討する」が33.1%、「ない」は10.3%となっています。



2. サービスの質の向上に向けた取組み

貴事業所では、サービスの質の向上に向けて、どのような取組みを行っていますか。

（あてはまるものすべてに○）

サービスの質の向上のためにしている取組みは、「事業所内での研修・講習会の実施」が77.8%で最も高く、次いで、「外部の研修や勉強会への参加」（64.1%）、「従業員の資格取得への支援」（61.9%）「サービス提供マニュアルの作成」（52.8%）、「事業者連絡会への出席」（52.8%）などとなっています。

サービス区別にみると、「事業所内での研修・講習会の実施」（83.1%）、「従業員の資格取得への支援」（78.3%）、「サービス提供マニュアルの作成」（67.5%）の3項目で「居住系・施設サービス」が最も高く、「外部の研修や勉強会への参加」は「訪問系サービス」（69.6%）が、「事業者連絡会への出席」は「通所系・短期系サービス」が55.5%で最も高くなっています。

サービス区別	n（回答者数）	（%）																
		事業所内での研修・講習会の実施	外部の研修や勉強会への参加	従業員の資格取得への支援	サービス提供マニュアルの作成	事業者連絡会への出席	苦情・相談内容の蓄積・活用	苦情・相談対応に関するマニュアル作成	自己評価の実施とその活用	事業者間の交流	指導・育成	OJTやメンター制度による活用	利用者による評価の実施とその活用	第三者評価の実施とその活用	専門家、コンサルタントの活用	ISO等品質管理に関する認証取得	その他	特にない
全体	320	77.8	64.1	61.9	52.8	52.8	50.3	47.2	46.9	38.4	33.4	30.9	24.1	10.3	3.4	0.9	0.3	1.9
訪問系サービス	125	74.4	69.6	47.2	48.8	53.6	45.6	44.8	40.8	27.2	30.4	12.8	11.2	2.4	0.8	-	3.2	
通所系・短期系サービス	110	78.2	60.0	66.4	47.3	55.5	50.9	45.5	42.7	39.1	25.5	27.3	13.6	11.8	0.9	-	0.9	0.9
居住系・施設サービス	83	83.1	61.4	78.3	67.5	48.2	56.6	53.0	57.8	34.9	53.0	36.1	55.4	7.2	7.2	2.4	-	1.2

3. 高齢者、障害者、外国人の活用の取組み状況

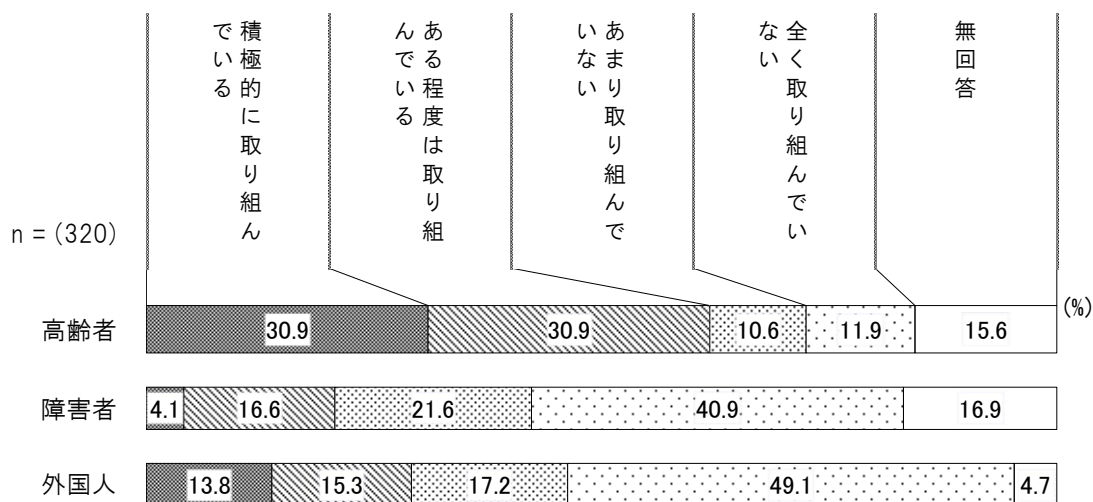
貴事業所では、高齢者、障害者、外国人の活用にどの程度取り組んでいますか。

(それぞれ1つに○)

高齢者の活用への取組みについては、「積極的に取り組んでいる」と「ある程度は取り組んでいる」がともに30.9%で最も高く、この2つを合わせた『取り組んでいる』は61.8%となり、「あまり取り組んでいない」(10.6%)と「全く取り組んでいない」(11.9%)を合わせた『取り組んでいない』は22.5%となっています。

障害者の活用への取組みについては、「全く取り組んでいない」が40.9%で最も高く、「あまり取り組んでいない」(21.6%)を合わせた『取り組んでいない』は62.5%となり、「積極的に取り組んでいる」(4.1%)と「ある程度は取り組んでいる」(16.6%)を合わせた『取り組んでいる』は20.7%となっています。

外国人の活用への取組みについては、「全く取り組んでいない」が49.1%で最も高く、「あまり取り組んでいない」(17.2%)を合わせた『取り組んでいない』は66.3%となり、「積極的に取り組んでいる」(13.8%)と「ある程度は取り組んでいる」(15.3%)を合わせた『取り組んでいる』は29.1%となっています。



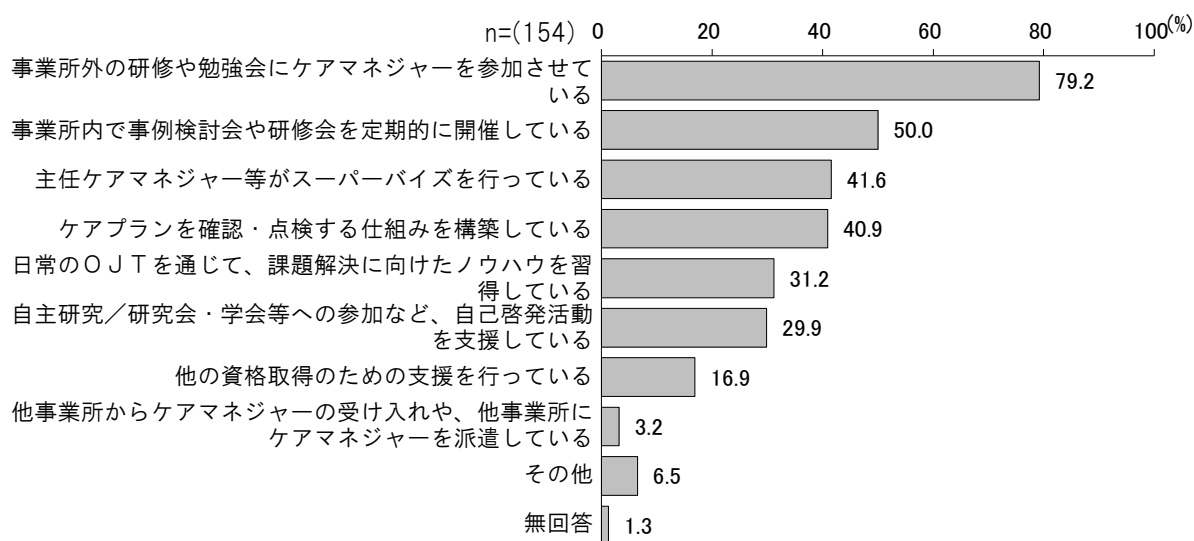
4. ケアマネジメントの質の向上に向けた取組み

<この設問の調査対象は、居宅介護支援事業所です。>

貴事業所では、ケアマネジメントの質の向上に向けて、どのような取組みをしていますか。

(あてはまるものすべてに○)

ケアマネジメントの質の向上のために行っている取組みは、「事業所外の研修や勉強会にケアマネジャーを参加させている」が79.2%で最も高く、次いで「事業所内で事例検討会や研修会を定期的に行っている」(50.0%)、「主任ケアマネジャー等がスーパーバイズを行っている」(41.6%)、「ケアプランを確認・点検する仕組みを構築している」(40.9%)などとなっています。



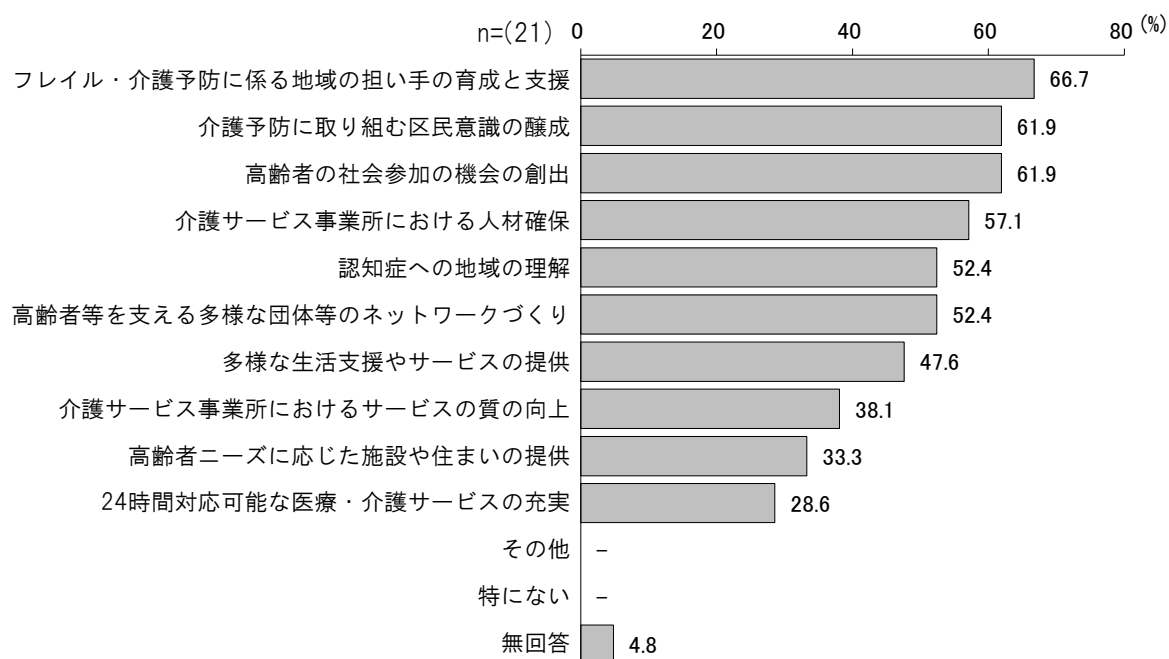
5. 地域包括ケアシステムの構築に向けて優先すべき課題

<この設問の調査対象は、地域包括支援センターです。>

地域包括ケアシステムの構築に向けて優先すべき課題についてご回答ください。

(あてはまるものすべてに○)

地域包括ケアシステムの構築に向けて優先すべき課題としては、「フレイル・介護予防に係る地域の担い手の育成と支援」が66.7%で最も高く、次いで「介護予防に取り組む区民意識の醸成」(61.9%)、「高齢者の社会参加の機会の創出」(61.9%)、「介護サービス事業所における人材確保」(57.1%)、「認知症への地域の理解」(52.4%)、「高齢者等を支える多様な団体等のネットワークづくり」(52.4%) などとなっています。

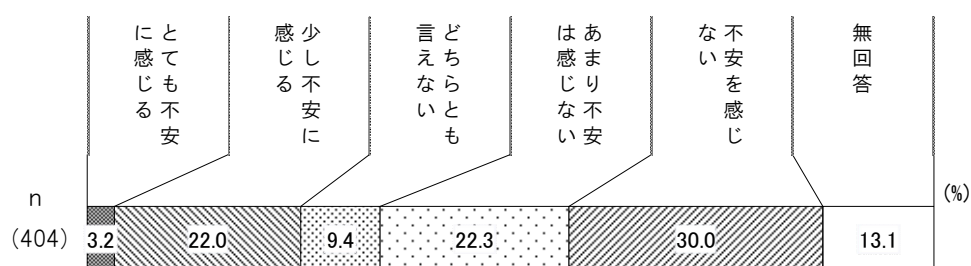


第6章 未把握ひとり暮らし高齢者訪問調査結果

1. 1人での生活について

1人での生活について、どのように感じていますか。

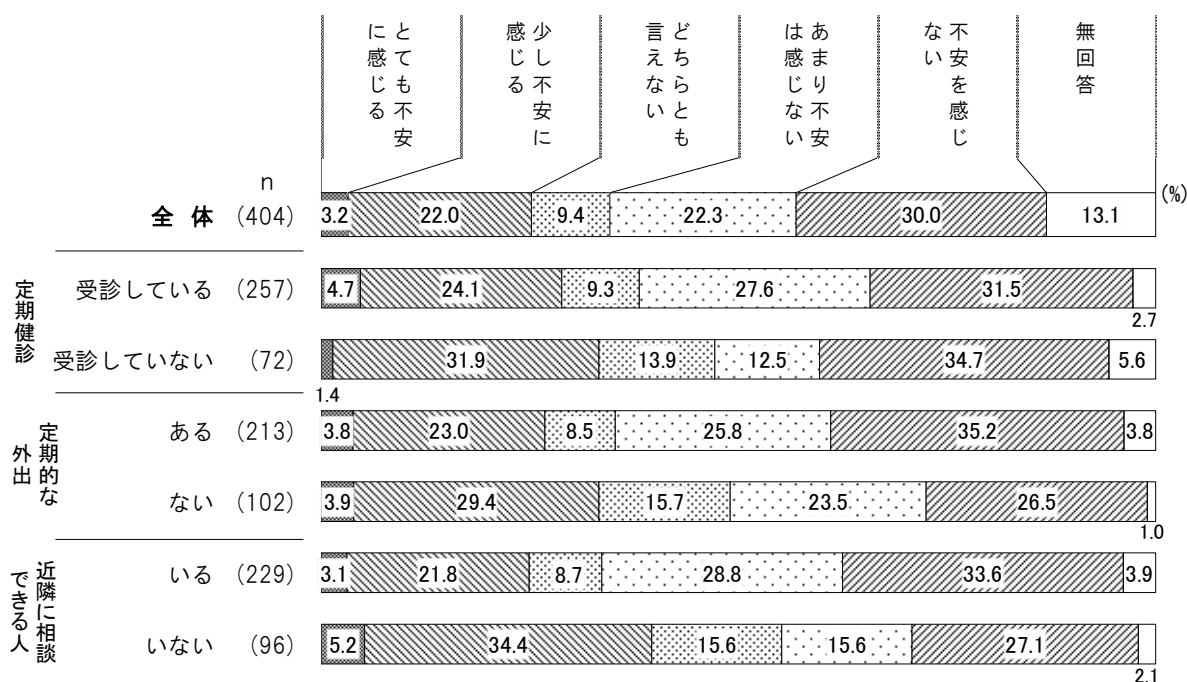
1人での生活については、「不安を感じない」が30.0%で最も高く、「あまり不安を感じない」(22.3%)を合わせた『不安を感じない』は52.3%となっています。逆に、「とても不安を感じる」(3.2%)と「少し不安を感じる」(22.0%)を合わせた『不安を感じる』は25.2%となっています。また、「どちらとも言えない」は、9.4%となっています。



定期健診の受診状況別にみると、『不安を感じる』は「受診していない」が33.3%で、「受診している」(28.8%)より高くなっています。

定期的な外出状況別にみると、『不安を感じる』は「(定期的な外出は)ない」が33.3%で、「(定期的な外出が)ある」(26.8%)より高くなっています。

近隣に相談できる人の有無別にみると、『不安を感じる』は「(相談できる人は)いない」が39.6%で、「(相談できる人が)いる」(24.9%)より高くなっています。

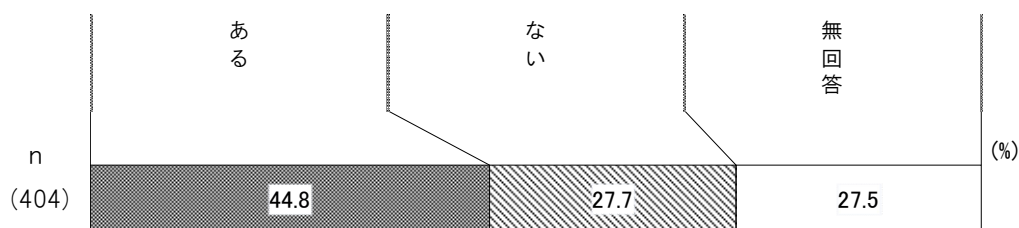


2. 普段の生活で楽しみにしていること

普段の生活の中で、楽しみにしていることはありますか。

【「ある」と回答された方に】それは、具体的にどのようなことですか。（自由回答）

楽しみにしていることは、「ある」が44.8%で、「ない」(27.7%)より高くなっています。



「ある」回答された方181人中、170人から楽しみにしている具体的なご回答をいただきました。内容を分類分けした結果は以下のとおりです。

普段の生活で楽しみにしていること	回答数(人)
スポーツ・スポーツ観戦	28
読書・音楽・観劇	24
盆栽や編み物等の手仕事や手芸ごと	12
競馬・パチンコ等の賭け事	11
その他の趣味	20
友人や知人との交流・会話	30
テレビを見ること	14
旅行	14
親類・子どもや孫との交流	13
仕事・仕事上での交流	11
お酒を飲む	8
買い物	8
散歩・街歩き	7
地域活動・ボランティア活動への参加	6

令和元年度 大田区高齢者等実態調査 報告書
－ 概要版 －

発行年月 令和2年3月

発行 大田区福祉部高齢福祉課・介護保険課
〒144-8621 大田区蒲田五丁目13番14号
電話 03(5744)1430【高齢福祉課】
電話 03(5744)1732【介護保険課】
